埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第281集

春日部市

八木崎遺跡

県立春日部高等学校関係埋蔵文化財発掘調査報告

2002

埼　玉　県

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

八木崎遺跡東側調査区（10月、東から）

八木崎遺跡東側調査区（12月、東から）

八木崎遺跡遠景（10月、南から）

八木崎遺跡遠景（12月、北から）

序

埼玉県は大小河川の集中する地域で、かつて何度となく洪水による大きな被害を受けてまいりました。また、さきの阪神・淡路大震災における被災地の惨状や、各地で繰り返される集中豪雨の被害を目のあたりにして、防災意識も大きく変化し、大規模災害対策の必要性が改めて認識されてまいりました。

本県では、近年の開発に伴い、予想される災害も複雑、多様化しております。県民の安全を確保するため、公共施設に耐震化を施し、広域的な防災基地としての災害活動拠点となるよう整備を行い、災害に強いまちづくりを進めているところであります。県立春日部高等学校の改築も、その一端であります。

春日部の地は中川の流路による侵食や、自然堤防の形成などが見られ、低地部においては水害から逃れるため、自然堤防上の微高地に古代の遺跡が形成されている地でもあります。

この度、春日部高校敷地内においても遺跡の存在が明らかとなり、これらの遺跡の取り扱いについては、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が各関係機関と慎重に協議を重ねた結果、やむを得ず記録保存の措置を講ずることになりました。当事業団が埼玉県教育局管理部財務課の委託を受けて、発掘調査を実施することとなりました。

その結果、奈良時代から平安時代にかけての集落跡が発見されました。出土遺物には、県内産の須恵器の他に、茨城県や千葉県産の遺物が含まれており、中川を通じて往時の流通の実態が明らかにされてまいりました。

その成果をまとめたものが、本書であります。本書が埋蔵文化財の保護、教育普及、学術研究の資料として広く活用していただければ幸いであります。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県教育局管理部財務課、さらに、春日部市教育委員会、ならびに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長　中野健一

例 言

1．本書は、埼玉県春日部市に所在する八木崎遺跡の発掘調査報告書である。

2．遺跡の略称と代表地番、および発掘調査届に対する指示通知は、以下の通りである。

遺跡名称

八木崎遺跡（ＹＧＳＫ）

所在地

埼玉県春日部市粕壁5539他

指示通知

平成９年７月１日付け　教文第２－77号

3．発掘調査は、県立春日部高等学校の改築工事に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整のもと、埼玉県教育局財務課の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

委託事業者

埼玉県教育局管理部財務課

受託事業者

(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

埼玉県大里郡大里村船木台４－４－１

4．本事業は、第Ⅰ章の組織により実施した。

5．発掘調査は、新屋雅明・田中広明・上野真由美が担当し、平成９年８月１日から平成９年12月31日まで実施した。

6．整理・報告書作成作業は金子直行が担当し、平成13年10月３日から平成14年３月22日まで実施した。

7．遺跡の基準点測量及び空中写真は、株式会社朝日航洋技術センター（現株式会社東日本朝日航洋）に委託した。

8．発掘調査における写真撮影は、新屋雅明・田中広明・上野真由美が行い、遺物写真の撮影は大屋道則、金子直行が行った。

9．出土品の整理および図版の作成は、遺物の実測を金子直行、石塚香、桜井元子、中嶋淳子、山田洋子、鉄製品を瀧瀬芳之が行い、その他を山田の協力を得て金子が行った。

10．本書の執筆はＩ－１を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、Ｖ－２を田中広明、Ｖ－３を宮瀧交二、それ以外を金子が行った。

11．本書の編集は、金子が担当した。

12．本書に掲載した資料は平成14年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

13．本書の作成にあたり以下の機関・諸氏からご教示・ご指導を賜った。記して、感謝の意を表します。(敬称略)

春日部市教育委員会　中野達也

凡 例

1．本書挿図中におけるX・Yの座標数値は、国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値を示す。また、各挿図における方位は、すべて座標北を表す。

2．遺跡におけるグリッドの設置は、国家標準直角座標に基づいて設置しており、10m×10mの方眼を組んでいる。

3．グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向西から東へ１～、南北方向北から南へＡ～、と番号を付けている。

4．挿図の縮尺は、各図版中に指示した。全体図については、その都度縮尺を変えてあるが、巻末に1/300の付図をつけた。他は、原則的に

遺構図……1/60

遺　物……1/4

に統一した。

5．遺物実測図脇に線を派生してある部分は、削りの位置を表しており、下図のように線と線までの間が削りを施している範囲である。

6．本報告書では、青灰色の明瞭な須恵器のみに対して、断面を黒く塗りつぶした。ロクロ成形土師器、土師質須恵器、酸化炎焼成須恵器等呼ばれる須恵器か土師器か判断の難しいものについては、断面を塗りつぶしていない。

7．遺物観察表は次のとおりである。

・口径、器高、底径はcmを単位とする。(下図参照)

・（　）内の数値は推定値・現存値である。

・色調は次の様に表記した。

青灰　灰白　褐灰　褐　明褐　etc

・胎土は肉眼で観察できるものを次の様に示した。

角ー角閃石　雲ー雲母　針ー白色針状物質

片ー片岩

・灰釉陶器は、断面にスクリーントーンをかけた。

・焼成は良好、普通、不良の三段階に分けた。

・残存率は図示した器形に対し、５％単位で示した。ただし、残存率20%以下のものについては、「破片」として処理した。

8．　遺構の表記記号は、以下のとおりである。

ＳＪ‥‥住居跡　　ＳＥ‥‥井戸

ＳＤ‥‥溝跡　　ＳＫ‥‥土壙

9．遺構図断面に表記した水準の数値は、海抜標高である。

10．本書に使用した地図は、建設省国土地理院発行の1/25000を、また、春日部市発行の1/2500、春日部高校改築設計図の1/500、を使用した。

目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の概要
　1．調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
　3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 3
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 4
Ⅲ　遺跡の概要 …… 8
Ⅳ　発見された遺構と遺物
　1．住居跡 …… 10
　2．土壙 …… 81
　3．井戸 …… 104
　4．溝跡 …… 120
　5．ピット状遺構 …… 124
Ⅴ　発掘の成果と提起する諸問題
　1．八木崎遺跡の集落変遷について …… 134
　2．八木崎遺跡の出土遺物について …… 140
　3．第6号住居跡出土の刻書紡錘車について …… 157

挿図目次

第1図　八木崎遺跡の位置図 …… 4
第2図　八木崎遺跡周辺の遺跡 …… 5
第3図　八木崎遺跡周辺の地形図 …… 6
第4図　調査区位置図 …… 8
第5図　遺跡全体図 …… 9
第6図　第1・3号住居跡 …… 11
第7図　第1号住居跡出土遺物 …… 12
第8図　第3号住居跡出土遺物 …… 13
第9図　第2・4・13号住居跡と出土遺物 …… 14
第10図　第4・13号住居跡出土遺物 …… 15
第11図　第5・6号住居跡 …… 17
第12図　第5・6号住居跡出土遺物 …… 18
第13図　第7号住居跡 …… 19
第14図　第7号住居跡出土遺物 …… 20
第15図　第8・9号住居跡 …… 21
第16図　第8号住居跡出土遺物 …… 22
第17図　第9号住居跡出土遺物 …… 23
第18図　第10a・10b号住居跡 …… 24
第19図　第10号住居跡出土遺物 …… 25
第20図　第11・12号住居跡 …… 27
第21図　第11・12号住居跡出土遺物 …… 28
第22図　第14・15号住居跡 …… 30
第23図　第15号住居跡出土遺物 …… 31
第24図　第16・17号住居跡と出土遺物 …… 32
第25図　第16号住居跡出土遺物 …… 33
第26図　第18・19号住居跡 …… 34
第27図　第18・19号住居跡出土遺物 …… 35
第28図　第20号住居跡 …… 36
第29図　第20号住居跡出土遺物 …… 37
第30図　第21・22号住居跡と出土遺物 …… 39
第31図　第22号住居跡出土遺物 …… 40
第32図　第23号住居跡と出土遺物 …… 41
第33図　第24・26号住居跡 …… 43
第34図　第24・26号住居跡出土遺物 …… 44

第35図　第25・27号住居跡と出土遺物 …… 45
第36図　第25号住居跡出土遺物 …… 46
第37図　第28号住居跡 …… 48
第38図　第28号住居跡出土遺物 …… 49
第39図　第29・30号住居跡出土遺物 …… 50
第40図　第29・30号住居跡 …… 51
第41図　第31号住居跡 …… 52
第42図　第31号住居跡出土遺物 …… 53
第43図　第32号住居跡と出土遺物 …… 54
第44図　第32号住居跡出土遺物 …… 55
第45図　第33・49号住居跡 …… 56
第46図　第33号住居跡出土遺物 …… 57
第47図　第34・35号住居跡 …… 59
第48図　第34・35号住居跡出土遺物 …… 60
第49図　第36・37号住居跡 …… 62
第50図　第36・37・38号住居跡出土遺物 …… 63
第51図　第38・39・40・50号住居跡 …… 64
第52図　第40・50号住居跡出土遺物 …… 65
第53図　第41ａ・41ｂ号住居跡 …… 67
第54図　第41号住居跡出土遺物 …… 68
第55図　第42・43号住居跡 …… 70
第56図　第42・43号住居跡出土遺物 …… 71
第57図　第44・45号住居跡 …… 72
第58図　第44・45号住居跡出土遺物 …… 73
第59図　第46・47号住居跡 …… 74
第60図　第46・47号住居跡出土遺物 …… 75
第61図　第48号住居跡と出土遺物 …… 76
第62図　第51・52号住居跡 …… 78
第63図　第51・52号住居跡出土遺物 …… 79
第64図　第53号住居跡と出土遺物 …… 80
第65図　土壙（1） …… 82
第66図　土壙（2） …… 83
第67図　土壙（3） …… 84
第68図　土壙（4） …… 86
第69図　土壙（5） …… 88
第70図　土壙（6） …… 90
第71図　土壙（7） …… 92
第72図　土壙（8） …… 94
第73図　土壙（9） …… 96
第74図　土壙（10） …… 98
第75図　土壙出土遺物（1） …… 100
第76図　土壙出土遺物（2） …… 101
第77図　井戸（1） …… 105
第78図　井戸（2） …… 106
第79図　井戸（3） …… 108
第80図　井戸（4） …… 110
第81図　井戸（5） …… 111
第82図　井戸（6） …… 112
第83図　井戸（7） …… 114
第84図　井戸出土遺物（1） …… 117
第85図　井戸出土遺物（2） …… 118
第86図　溝土層断面図 …… 120
第87図　溝全体図 …… 121
第88図　溝出土遺物 …… 123
第89図　ピット分布図（1） …… 125
第90図　ピット分布図（2） …… 126
第91図　ピット分布図（3） …… 127
第92図　ピット分布図（4） …… 128
第93図　八木崎遺跡の集落変遷図 …… 135
第94図　八木崎遺跡の時期別集落変遷図（1） …… 136
第95図　八木崎遺跡の時期別集落変遷図（2） …… 137
第96図　八木崎遺跡の出土土器変遷図 …… 141
第97図　住居跡出土土器の産地別総重量 …… 146
第98図　住居跡出土土器の産地別出土比率（須恵器） …… 148
第99図　住居跡出土土器の産地別出土比率（須恵器以外） …… 149
第100図　住居跡出土食器の産地別比率の変遷 …… 150
第101図　住居跡出土煮沸具の産地別比率の変遷 …… 151
第102図　八木崎遺跡の食器の供給（1） …… 152
第103図　八木崎遺跡の食器の供給（2） …… 153
第104図　八木崎遺跡第6号住居跡出土紡錘車 …… 157

写真図版

図版1　第1号住居跡
第1号住居跡遺物出土状況
図版2　第2・4・13号住居跡完掘状況
第4号住居跡鎌出土状況
図版3　第3号住居跡
第3号住居跡遺物出土状況
図版4　第3号住居跡紡錘車出土状況
第4号住居跡
図版5　第5・6号住居跡
第8号住居跡
図版6　第9号住居跡
第10号住居跡
図版7　第10号住居跡カマド
第12号住居跡
図版8　第15号住居跡
第18号住居跡
図版9　第19号住居跡
第20号住居跡
図版10　第21号住居跡
第21号住居跡鉄器出土状況
図版11　第22号住居跡
カマドA　カマドB
鉄器出土状況　遺物出土状況
図版12　第23号住居跡
第23号住居跡カマド
図版13　第24号住居跡
第24号住居跡カマド
図版14　第25号住居跡
第28号住居跡
図版15　第29号住居跡
第29号住居跡カマド
図版16　第31号住居跡
第31号住居跡カマド
図版17　第32号住居跡
第32号住居跡カマド
図版18　第33号住居跡
第33号住居跡カマド
図版19　第33・49号住居跡
第35号住居跡
図版20　第36号住居跡
第36号住居跡遺物出土状況
図版21　第37号住居跡
第38号住居跡
図版22　第40号住居跡
第41号住居跡
図版23　第41号住居跡完掘状況
第41号住居跡カマド
図版24　第42号住居跡
第42号住居跡カマド
図版25　第43号住居跡
第45号住居跡
図版26　第46号住居跡（東から）
第46号住居跡（南から）
図版27　第47号住居跡
第42・48号住居跡
図版28　第45・50号住居跡
第51号住居跡
図版29　第19号住居跡周辺の集合写真
第27号住居跡周辺の集合写真
図版30　各土壙・各井戸
第12号土壙　第34号土壙
第58号土壙土層断面　第58号土壙
第66号土壙　第1号井戸
第6号井戸　第9号土壙図版1
図版31　出土遺物（1）土師器甕
図版32　出土遺物（2）土師器甕
図版33　出土遺物（3）土師器甕
図版34　出土遺物（4）土師器甕
図版35　出土遺物（5）土師器甕・須恵器
図版36　出土遺物（7）土師器坏・東金子須恵器

図版37　出土遺物（8）南比企須恵器
図版38　出土遺物（9）南比企・末野須恵器
図版39　出土遺物（10）末野・新治・三和須恵器
図版40　出土遺物（11）三和・常陸須恵器
図版41　出土遺物（12）下総系須恵器・土師器
図版42　出土遺物（13）下総系須恵器・土師器
図版43　出土遺物（14）下総系須恵器・土師器
図版44　出土遺物（15）中世陶器
図版45　出土遺物（16）鉄製品
図版46　出土遺物（18）鉄製品

表　目　次

第1表　八木崎遺跡周辺の遺跡地名表 …… 5
第2表　住居跡一覧表 ……129
第3表　土壙一覧表 ……130
第4表　井戸跡一覧表 ……131
第5表　ピット計測表 ……131
第6表　八木崎遺跡遺構新旧対応表 ……133

遺物観察表

第1・3号住居跡出土遺物観察表 …… 10
第2・4・13・5号住居跡出土遺物観察表 …… 16
第6号住居跡出土遺物観察表 …… 17
第7号住居跡出土遺物観察表 …… 20
第8号住居跡出土遺物観察表 …… 22
第9号住居跡出土遺物観察表 …… 23
第10号住居跡出土遺物観察表 …… 26
第11・12号住居跡出土遺物観察表 …… 29
第15号住居跡出土遺物観察表 …… 31
第16・17号住居跡出土遺物観察表 …… 33
第18・19号住居跡出土遺物観察表 …… 35
第20・21・22号住居跡出土遺物観察表 …… 38
第23号住居跡出土遺物観察表 …… 42
第24・26号住居跡出土遺物観察表 …… 44
第25・27号住居跡出土遺物観察表 …… 47
第28号住居跡出土遺物観察表 …… 49
第29・30号住居跡出土遺物観察表 …… 50
第31号住居跡出土遺物観察表 …… 53
第32号住居跡出土遺物観察表 …… 55
第33・49号住居跡出土遺物観察表 …… 58
第34・35・36・37号住居跡出土遺物観察表 …… 61
第38・40号住居跡出土遺物観察表 …… 66
第41号住居跡出土遺物観察表 …… 69
第42・43・44号住居跡出土遺物観察表 …… 71
第45号住居跡出土遺物観察表 …… 73
第46・47号住居跡出土遺物観察表 …… 75
第48号住居跡出土遺物観察表 …… 77
第51・52号住居跡出土遺物観察表 …… 79
第53号住居跡出土遺物観察表 …… 80
土壙出土遺物観察表 ……102
井戸出土遺物観察表 ……119
溝跡出土遺物観察表 ……124

Ⅰ　発掘調査の概要

1．発掘調査に至るまでの経過

埼玉県は、「環境優先・生活重視」の基本理念のもとで、県民一人一人が誇りと愛着の持てる豊かな彩の国である「埼玉の新しいくにづくり」を目指して、種々の政策を掲げて推進している。

その中で、高等学校教育等の充実を図る施策として、生徒の多様なニーズに対応するための教育環境の整備を行うために、後者の大規模改修・改造等を進めている。県立春日部高等学校の校舎改修事業も、その一つである。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、このような施策の推進に伴う埋蔵文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

県立春日部高等学校の改修に関しては、県教育局管理部財務課長より事業予定地内における埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて、照会を受けた。

これに対して文化財保護課では、予定地には八木崎遺跡が存在し、工事計画上やむを得ず状況を変更する場合には、事前に文化財保護法第57条の３の規定による発掘届を提出し、記録保存のための発掘調査を実施する必要がある旨を回答した。

その後、文化財保護課と関係部局との事前協議がなされてきたが、計画の変更が不可能であるため、造成地区について記録保存の措置を講ずることとした。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業団・県財務課・文化財保護課の三者により、調査方法・期間・経費等について協議が行われた。

その結果、調査は平成９年８月１日から12月31日まで実施された。

なお、発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

平成９年７月１日付け　教文第２－77号

（文化財保護課）

2．発掘調査・報告書刊行の経過

（1）発掘調査

八木崎遺跡の調査は、平成９年８月１日から平成９年12月31日まで行った。調査面積は9000㎡である。

調査に先立って、発掘調査に関する打ち合わせを行い校庭の利用、グランド内構造物の解体工事、発掘調査がそれぞれ円滑に行える工程の検討を行った。排土の場外への搬出、場内での置場の確保は困難であったため、調査区と排土置場を中途で反転して作業を行った。

発掘調査の実施経過は以下のとおりである。

７月下旬に事務所を設置し、水道・ガス・電話線などの付帯工事を実施した。また、周辺住宅の家屋調査を行い発掘調査を開始する準備を行った。

８月に入って、対象区の東側から掘削をはじめ、西側を排土置場とした。掘削は８月下旬にかけて行われた。

８月６日から補助員による作業を開始した。遺構精査を行ったところ、東側の調査区全体に、奈良・平安時代の住居跡、中・近世の土壙、溝、柱穴の存在が確認され、順次遺構の調査に着手した。基準杭・方眼杭の設置を委託して行った。

８月中旬から10月にかけて、東側の調査区における作業を進めた。遺構の掘り下げ、土層断面図の作成、遺物の取り上げ、写真撮影、平面図作成などを行った。

10月中旬に調査区東側の航空写真撮影を委託して実施した。

航空写真撮影終了後、10月下旬には西側にあった排土を東側に移動し、引き続き西側の掘削、遺構精査を開始した。東側同様に、奈良・平安時代の住居跡、中・近世の土壙、溝、柱穴などが確認された。

11月から12月にかけて、西側で確認した遺構について掘り下げを進め、遺物の取り上げ、遺物の写真撮影等を行った。

12月中旬には遺構の写真撮影、平面図作成、航空写真撮影などを実施して、調査を終了した。

調査の完了とともに調査区の埋め戻しを行った。その後、現場事務所の撤去・器材搬出を行い、12月末をもって、八木崎遺跡の調査に関するすべての作業を終了した。

（2）整理・報告書作成

整理作業は平成13年10月３日から平成14年３月22日まで実施した。

10月上旬から遺物の水洗・注記を行い、同時に図面・写真の整理を行った。

遺物の復元は、10月から12月にかけて接合などの作業と同時進行したが、土師器の甕は器壁が薄く、また、出土量も比較的多いため、接合復元に多くの時間を割いた。

復元された遺物は、順次図化を行い、トレースなどの墨入れを行った。

遺構の図面整理は、10月初旬から行ったが、住居跡の重複が多く、また、井戸、土壙に通しのナンバーが付けられていたため、分離、整理するのに時間を割いた。

遺構図は11月の中旬よりトレースを行い、版組みも同時進行で行った。

１月の中旬に遺物の写真撮影を行い、１月の下旬には、遺構図、遺物実測図、写真等の割り付けを終了させた。

原稿は、12月の中旬より執筆を開始し、１月の下旬に終了させた。

報告書は、２月の下旬より校正を開始し、３月中旬までに校正を終え、３月下旬に印刷を終了して、刊行した。

3．発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主体者　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査（平成９年度）

理事長	荒井　桂
副理事長	富田　真也
常務理事兼管理部長	稲葉　文夫

管理部

庶務課長	依田　透
主査	西沢　信行
主任	長滝美智子
主任	腰塚　雄二
専門調査員兼経理課長	関野　栄一
主任	江田　和美
主任	福田　昭美
主任	菊池　久

調査部

理事兼調査部長	梅沢太久夫
調査部副部長	今泉　泰之
調査第二課長	杉崎　茂樹
主査	中村　倉司
主任調査員	新屋　雅明
主任調査員	田中　広明
調査員	上野真由美

(2) 整理作業（平成13年度）

理事長	中野　健一
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	大舘　健

管理部

管理幹	持田　紀男
主任	菊池　久
主任	江田　和美
主任	長滝美智子
主任	福田　昭美
主任	腰塚　雄二

調査部

調査部長	高橋　一夫
調査部副部長	坂野　和信
主席調査員	磯崎　一
(資料整理担当)	
統括調査員	金子　直行

Ⅱ 遺跡の立地と環境

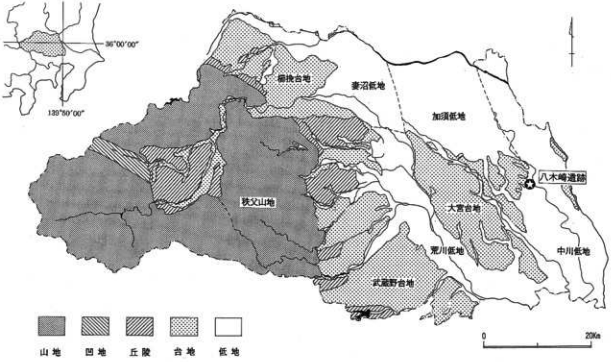
八木崎遺跡は東武野田線八木崎駅の北側に位置し、春日部市粕壁5539番地他に所在する。今回の調査区は駅から約70m程のところに当たり、標高7～8m前後を測る自然堤防上に立地する。

遺跡の所在する春日部市は埼玉県の東部に位置し、現在、市内には南北方向に東武伊勢崎線が、東西方向に東武野田線が走り、同様に国道4号線が南北に、国道16号線が東西に走る等、交通の便も良く、開発の波が押し寄せている地域である。

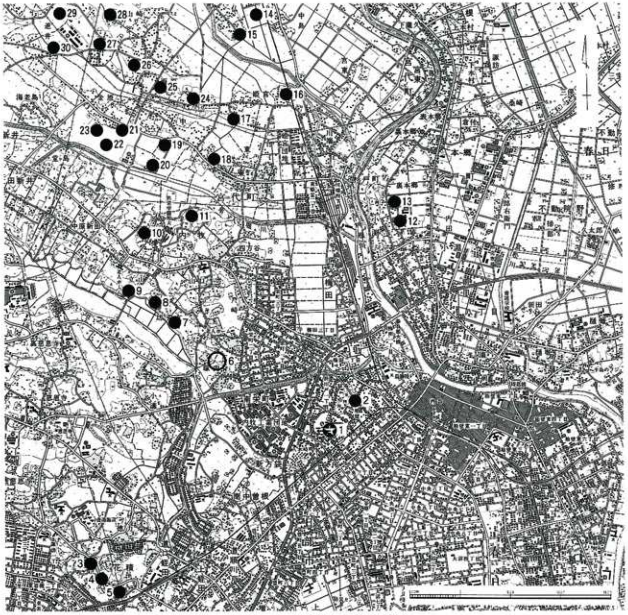
地理的な環境では、春日部市は大宮台地の北東縁に当たり、市域の大半が中川水系によって形成された中川低地上に存在する。大宮台地は南東方向に細長く区切られた幾つかの台地から構成されているが、これ等の中で北東端の台地である慈恩寺台地の東側縁辺に、春日部市域内の北西部が相当する。また、全体からすれば、約1割程度が台地部となるが、この台地東縁は、南下して安行台地の北東縁にかけて直線的な崖線を形成しており、縄文海進時の汀線を表しているものと理解される。従って、この崖線上の台地部には、旧石器時代の遺跡や貝塚等を含めた縄文時代の遺跡が多く存在している。

市域北西部に張り出している内谷地区の台地は最高部で標高17m前後を測るが、低地面から約12m程の比高差を持ち、縄文時代前期初頭花積下層式のタイプサイトである花積貝塚（3）を始め、花積内谷耕地遺跡（4）、花積台耕地遺跡（5）等の縄文時代の遺跡が存在する。その裾部には市内を流れ大落古利根川に合流する、古隅田川が東流する。

また、黒沼笠原沼用水路と隼人堀川に挟まれた北部内牧地区の台地は、岩槻市側の南西側で標高12～13m前後、宮代町側で約11m前後と低くなり、低地面との比高差も4～5mで、宮代町側では比高差が殆ど存在しない程埋没している部分もある。坊荒句遺跡（7）、坊荒句北遺跡（8）は旧石器時代から縄文時代早期、中期等の遺構、遺物が出土しており、中でも、早期の撚糸文期の住居跡等は県内でも有数の



第1図　八木崎遺跡の位置図

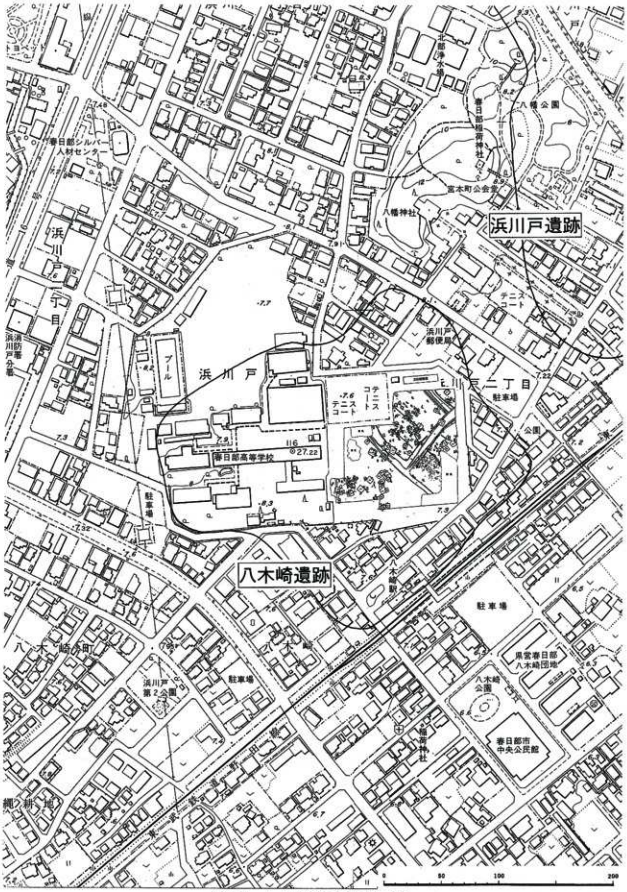


第２図　八木崎遺跡周辺の遺跡

第１表　八木崎遺跡周辺の遺跡地名表

市町村	番号	遺　跡　名	時　　代
春日部市	1	八木崎	奈良・平安
	2	浜川戸	奈良・平安・中近世
	3	花積貝塚	縄文
	4	花積内谷耕地	縄文
	5	花積台耕地	縄文
	6	内牧塚内古墳群	古墳
	7	坊荒句	旧石器・縄文・中近世
	8	坊荒句北	旧石器・縄文
	9	立山	縄文
	10	大道東	縄文
	11	竹之下	縄文・中近世
	12	小渕山下北	古墳・奈良・平安・中世
	13	小渕山下	奈良・平安
宮代町	14	道仏北	縄文・奈良・平安
	15	道仏	縄文・古墳

市町村	番号	遺　跡　名	時　　代
宮代町	16	姫宮神社	縄文・古墳
	17	藤曽根	縄文
	18	中寺	縄文・奈良・中近世
	19	前原	旧石器・縄文
	20	中	旧石器・縄文・奈良・平安・中近世
	21	金原東	縄文
	22	金原	旧石器・縄文
	23	金原前	縄文
	24	地蔵院	旧石器・縄文・古墳・中近世
	25	伝承旗本服部氏屋敷跡	中近世
	26	星谷	縄文
	27	山崎南	縄文・古墳
	28	山崎	縄文・古墳
	29	山崎山	旧石器・縄文・古墳・奈良
	30	逆井	旧石器・縄文・奈良・近世


浜川戸遺跡
八木崎遺跡
浜川戸
浜川戸
浜川戸

検出例となっている。

さらに、宮代町側の低台地では撚糸文期の終末期の集落として全国的にも著名な前原遺跡（19）や、条痕文期の地蔵院遺跡（24）等の旧石器から縄文時代早期にかけての良好な遺跡が存在するのみではなく、山崎遺跡（28）、山崎山遺跡（29）の様に、後期前半の遺跡も存在している。やはり、慈恩寺台地の中においても、縄文時代早期、中期、後期の遺跡群は占地を異にしている様であり、後期の遺跡が低台地へと進出している点が特徴的である。

一方、春日部市域の大半をカバーする低地部分は、庄内古川（中川）で東縁を区切られて庄和町との境となし、中央部東側に大落古利根川が南北に貫流し、北西部の台地部から流れ出る星川や、元荒川から分流して北・東流する古隅田川等が合流して形成する肥沃な中川低地の中流域に属している。これ等、蛇行する荒川、利根川の元流には、関東平野中央部に見られる特徴的な自然堤防、後背湿地、河畔砂丘が発達しており、市内北部の小渕地区、中央部の浜川戸地区、南部の藤塚地区において、自然堤防上に河畔砂丘が形成されている。小渕地区・藤塚地区では古利根川に沿う形で南北に平行した砂丘が、中央部の浜川戸地区では北東方向に平行した小砂丘が形成されている。

浜川戸砂丘は、古隅田川と古利根川との現合流点から約１㎞程西へ入った、古隅田川の南川に形成されている。八木崎遺跡（1）は、この北東方向に横たわる浜川戸砂丘の南西側に位置し、砂丘の東側には浜川戸遺跡が対峙して存在する。しかし、砂丘の南側部分では、両遺跡は非常に近接して存在しており、今後の調査の進展から両遺跡が一連の遺跡になる可能性も残されている。

これ等の河畔砂丘が自然堤防等を拠り所として発達することは知られるところであるが、その形成時期については充分に解明されていない部分がある。沖積地に形成された自然堤防上には、古くは縄文時代や弥生時代から、多くは古代の遺跡が形成されている場合が多い。自然堤防上の砂丘に遺跡が形成されている現在のところ最も古い例は、加須市の志多見砂丘で、弥生時代終末の遺物が出土している。大半は、平安時代から鎌倉時代にかけて形成された砂丘であると考えられている。

浜川戸砂丘と浜川戸遺跡の関係は、浜川戸遺跡の遺構が、砂丘下に堆積した自然堤防を構成する砂質シルト層を基盤として構築されていることが確認されていることや、また、砂丘上から出土した板碑の年代から、砂丘が平安時代末に形成され始め、鎌倉時代の13世紀末までには完了していたことが明らかになっている。

浜川戸遺跡は現在までに26次を数える調査が行われており、古くは古墳時代後期の遺物や埴輪が出土している。主体となる時期は奈良時代から平安時代のおよそ７世紀中葉から９世紀後半にかけての集落であり、砂丘を取り囲むように広大な分布を示している。また、中世の鎌倉時代では、掘立柱建物跡や礎石列、堀跡等が検出されている。

砂丘を取り囲みながらも、ほぼ南西側に連続的に位置し今回報告になる八木崎遺跡、及び八木崎遺跡第２次調査区では、奈良時代から平安時代にかけての浜川戸遺跡とほぼ同様な時期の集落が発見されている。両遺跡の成果や、小渕砂丘上に形成されたほぼ同時期の遺跡である小渕山下遺跡（13）、小渕山下北遺跡（12）の成果を合わせると、奈良時代から平安時代、中世に至る地域の様相が徐々にではあるが明らかになりつつあるのが現状である。また、中川水系を中心とした武蔵、下総、常陸、下野との広大な地域に亘る交流史や物流史を描き出すことが可能になってきているのである。

＜参考文献＞

『春日部市史　通史編Ⅰ』
「小渕山下北遺跡・八木崎遺跡２次・花積内谷耕地遺跡５次」春日部市埋蔵文化財調査報告書第８集
「浜川戸遺跡17・19・20次」春日部市遺跡調査会報告書第12集

Ⅲ 遺跡の概要

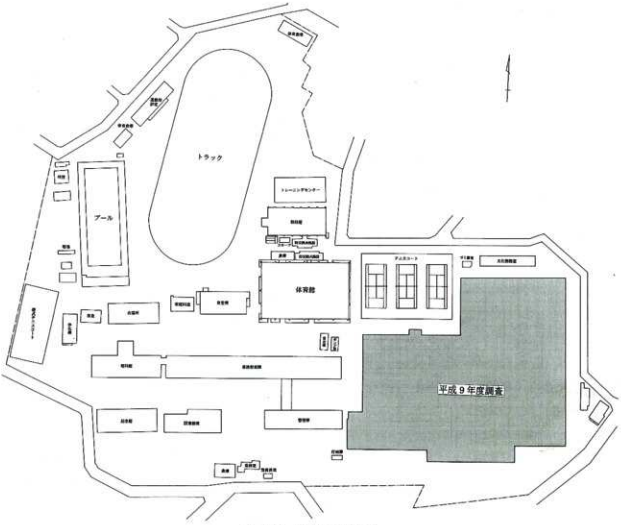
八木崎遺跡は、東武野田線の八木崎駅のすぐ北側に位置する。遺跡は現在の県立春日部高等学校の敷地内を中心として、駅周辺を含む範囲で確認されているが、標高約7～8ｍ前後の埋没した自然堤防上に形成されているため、その範囲は確定し難い。すぐ北西側に、ほぼ同時期の浜川戸遺跡が隣接するため、一連の遺跡になる可能性もある。

今回の調査範囲は第4図に示した通り、野球、テニスなどの球技用のグランドに相当する部分で、新校舎が建設される部分である。調査面積は6000㎡で、廃土の関係から、東側半分と西側半分に調査区を分けて反転しながら調査を行った。調査期間中には集中豪雨で調査区が埋没したこと等があり、遺構の確認並びに、井戸等の深度のある調査が非常に困難であった。

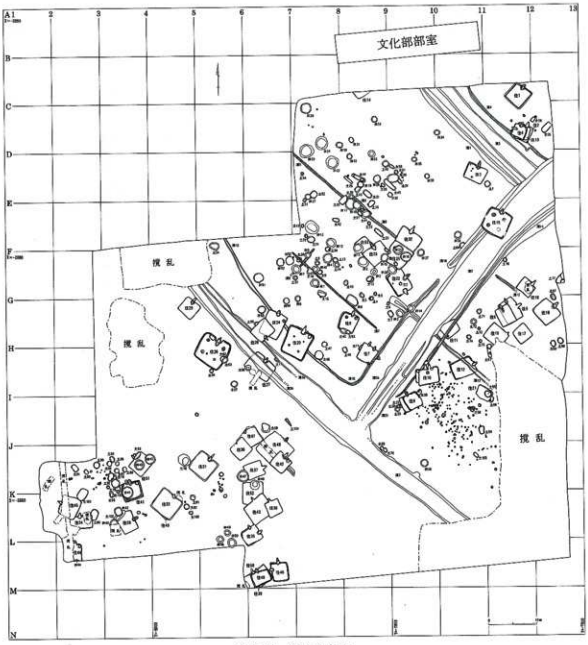
遺跡は北西方向から南東方向にかけて緩く傾斜しており、地表面で約50cm程の比高差がある。遺構検出面は地表から比較的深く、深い部分では約60cm程を計り、検出面からの住居跡床面の深度は、時期が新しくなる程浅くなる傾向にある。

今回の調査で検出された遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居跡53軒、土壙105基、井戸55基、溝13条、ピット状遺構261個であった。

奈良時代の住居跡は北東にカマドを構築した、一



第４図　調査区位置図



第５図　遺跡全体図

辺５～８ｍ程の方形で、大形のものが多く、煙道部の天井が明瞭に残存するカマドも存在した。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、高台付椀を主体とし、少量の鎌や刀子、鉄鏃等の鉄製品が出土している。

平安時代の住居跡は奈良時代と比較して小規模で、カマドの位置も北、東、南等多様化している。遺構の掘り込みも概して浅く、深いものでも確認面から20cm程度であった。遺物は土師器の坏、甕、須恵器の坏、高台付椀等に加え、須恵器の甑や甕、黒色土器の坏、高台付皿・椀、灰釉陶器等、石製・土製の紡錘車、土錘、鉄製品が出土している。

遺跡からは常陸・下総北部に限定的に分布する外面同心円文タタキの甕や、新治、三蟠山、南比企、東金子等の各地の須恵器が出土していること等から、土器の流通を考える上でも重要な資料が出土しているといえよう。また、これ等の遺物からも、八木崎遺跡は、古代の国郡制下にあっては武蔵国と下総国の狭間に位置し、奈良時代では武蔵国側の、平安時代では下総国側の特色を色濃く反映していることが窺われるのである。

Ⅳ 発見された遺構と遺物

1．住居跡

第１号住居跡（第６・７図）

Ｂ・Ｃ－11、Ｂ－12グリッドに位置する。平面形態は南北方向にやや細長い方形ではあるが、東壁が西壁より長く、やや不整形である。規模は長径4.60ｍ、短径4.32ｍ、深さ0.44ｍを測る。

主軸方位はＮ－40°－Ｅを測り、カマドは北壁中央部やや西寄りに構築されている。壁溝は全周し、およそ幅0.33ｍ、深さ0.52ｍ程を測る。柱穴、貯蔵穴等の住居跡の付属施設は確認されなかった。

住居跡北東コーナーにほぼ完形に復元される甕２個体、南壁中央部やや東よりに甕１個体が、それぞれ壁溝の上に出土した。住居跡の北東コーナーに浅い貯蔵穴が存在していたのか、壁上から転落したのかの何れかと思われ、一部床面に密着している。出土遺物から、８世紀前半代の所産と思われる。

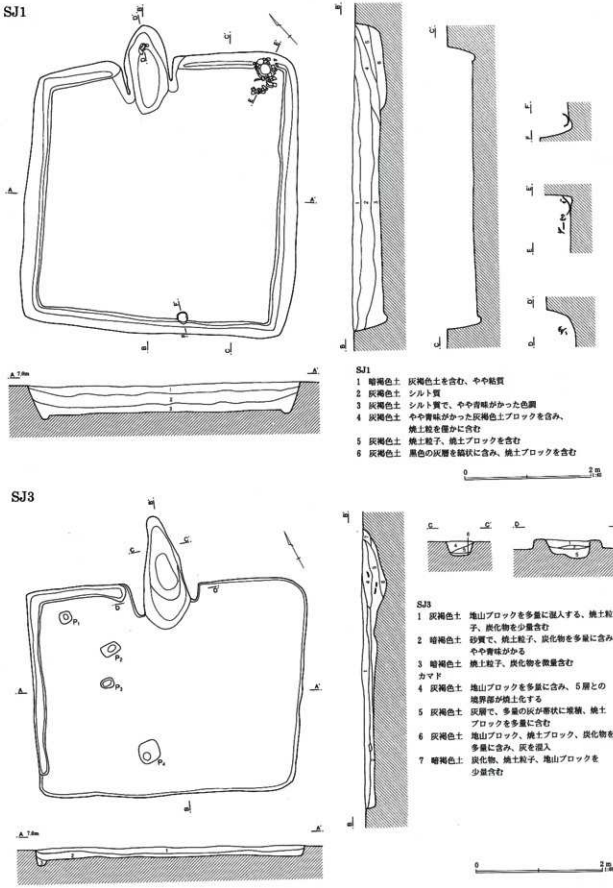
遺物は土師器坏、土師器甕、須恵器坏・高台付皿、

第１号住居跡出土遺物観察表（第７図）

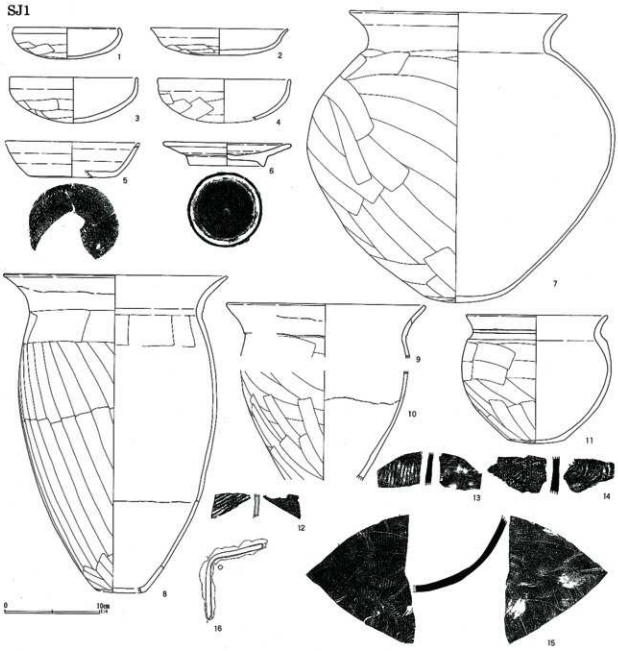
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	11.3	3.4	—	角	普通	明褐	90	利根川水系の土	
2	坏	(14.2)	2.8	—	角雲	普通	褐	40	利根川水系の土	36-1
3	坏	(13.2)	4.8	—	角	普通	褐	35	利根川水系の土	36-2
4	坏	(14.2)	(4.4)	—	角	普通	褐	25	利根川水系の土	
5	坏	—	(3.7)	(9.0)		不良	褐	40	下総地方	
6	高台付皿	12.9	2.4	7.8	角雲	普通	褐灰	60	下総地方	43-7
7	甕	23.2	30.6	—	角	普通	明褐	80	利根川水系の土	31-1
8	甕	(23.7)	33.5	(5.0)	角	普通	褐	70	利根川水系の土	31-3
9	甕	(21.2)	(5.6)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
10	甕	—	(11.1)	—	角	普通	褐	45	利根川水系の土	
11	甕	15.0	13.5	6.0	角	普通	褐	50	利根川水系の土	31-2
12	長頸瓶	—	—	—		普通	灰白	破片	東濃産　灰釉陶器	
13	甕	—	—	—		普通	灰白	破片	下総地方	
14	甕	—	—	—		普通	灰白	破片	下総地方	
15	壷	—	—	—		良好	灰白	25	東海産	
16	鉄製不明品	残存長6.1、幅0.5cm								

第３号住居跡出土遺物観察表（第８図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	14.1	4.1	(8.0)	角	普通	褐	80	下総地方	42-3
2	蓋	(21.1)	(2.3)	—	針	普通	青灰	破片	南比企窯	
3	甕	(12.0)	(5.6)	—	角	普通	褐灰	20	利根川水系の土	
4	甕	13.3	(13.0)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	33-3
5	甕	(14.0)	(12.0)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	33-4
6	甕	(19.0)	(7.5)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
7	甕	(19.6)	(5.7)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
8	甕	(18.9)	(5.6)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
9	甕	—	—	—		良好	灰白	破片	下総地方	
10	甕	—	—	—		良好	灰白	破片	下総地方	
11	石製紡錘車	長径(3.5)cm、短径2.6cm、厚1.6cm、重さ23.86g								
12	鉄製不明品	残存長20.5、幅2.3cm								
13	鉄製不明品	残存長2.6、幅0.7cm								


SJ1
SJ1
1 暗褐色土 灰褐色土を含む、やや粘質
2 灰褐色土 シルト質
3 灰褐色土 シルト質で、やや青味がかった色調
4 灰褐色土 やや青味がかった灰褐色土ブロックを含み、焼土粒を僅かに含む
5 灰褐色土 焼土粒子、焼土ブロックを含む
6 灰褐色土 黒色の灰層を筋状に含み、焼土ブロックを含む
SJ3
SJ3
1 灰褐色土 地山ブロックを多量に混入する、焼土粒子、炭化物を少量含む
2 暗褐色土 砂質で、焼土粒子、炭化物を多量に含み、やや青味がかる
3 暗褐色土 焼土粒子、炭化物を微量含む
カマド
4 灰褐色土 地山ブロックを多量に含み、5層との境界部が焼土化する
5 灰褐色土 炭層で、多量の炭が帯状に堆積、焼土ブロックを多量に含む
6 灰褐色土 地山ブロック、焼土ブロック、炭化物を多量に含み、灰を混入
7 暗褐色土 炭化物、焼土粒子、地山ブロックを少量含む

第6図 第1・3号住居跡



第７図　第１号住居跡出土遺物

須恵器甕、鉄製品が出土している。

第３号住居跡（第６・８図）

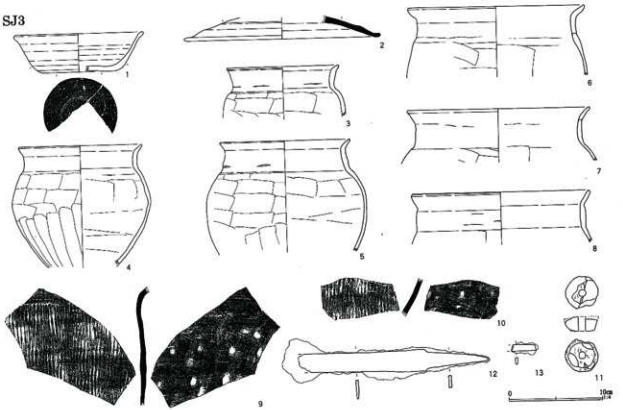
Ｄ－10・11グリッドに位置する。平面形態はやや北壁が開き、東西方向に細長い長方形で、規模は長径4.42ｍ、短径3.34ｍ、深さ0.16ｍを測る。

主軸方位はＮ－26°－Ｅを測り、カマドは北壁のほぼ中央部に構築されている。周溝は北西コーナーから西壁にかけて巡り、幅0.19ｍ、深さ0.23ｍを測る。ピットは４本検出され、Ｐ１＝0.12ｍ、Ｐ２＝0.09ｍ、Ｐ3＝0.04ｍ、Ｐ4＝0.13ｍであるが、住居跡の柱穴ではない。貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀代後半の所産と思われる。

遺物は須恵器坏、須恵器蓋、須恵器甕、土師器甕、紡錘車、刀子等が出土した。

第２・４・13号住居跡（第９・10図）

Ｃ－11・12グリッドに位置する。重複関係から第



第８図　第３号住居跡出土遺物

13号住→第2号住→第4号住の順に新しくなる。

第２号住居跡はほぼ方形を呈し、規模は長径3.32ｍ、短径3.32ｍ、深さ0.17ｍを測る。主軸方位はN－26°－Eを測り、カマドは北壁ほぼ中央部に構築されている。第13号住居跡の上に重複し、第４号住居跡に切られている。柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀後半代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甑等が出土した。

第4号住居跡はほぼ方形を呈し、規模は長径2.91ｍ、短径2.73ｍ、深さ0.40ｍを測る。第２・13号住居跡を切っている。カマドは北壁と西壁のほぼ中央部に構築されている。主軸方位はカマドＡがN－22°－E、カマドＢがN－65°－Wを測る。周溝は北東コーナーから東壁にかけて巡り、幅0.23ｍ、深さ0.43ｍ程である。柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀末葉代の所産と思われる。遺物は土師器甕、土師器台付甕、須恵器坏、須恵器甕、須恵器甑、鉄製鎌等が出土した。

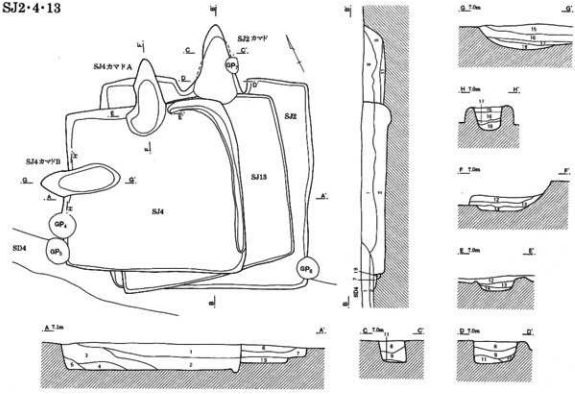
第13号住居跡はほぼ方形を呈し、規模は長径2.80ｍ、短径2.72ｍ、深さ0.06ｍを測る。長軸方位はN－16°－Eを測るが、第4号住居跡のカマドＡが本住居跡のカマドになる可能性もある。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。３軒の住居跡の中で、最も古い住居跡である。出土遺物が少なく、時期判定は難しいが、９世紀前半代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕の破片が出土しており、坏の底部には刻書文字が見られる。

第５・６号住居跡（第11～12図）

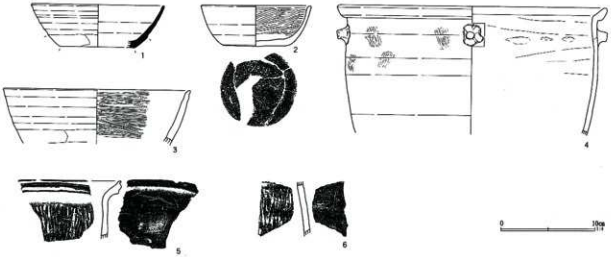
Ｇ－11グリッドに位置する。２軒の重複であるが、第６号住居跡の方が新しい。

第５号住居跡は南北方向に細長い長方形を呈し、長径4.00ｍ、短径3.33ｍ、深さ0.15ｍを測る。主軸方位はN－28°－Wを測り、カマドは北壁中央部に構築されている。柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀後半代の所産と思われる。

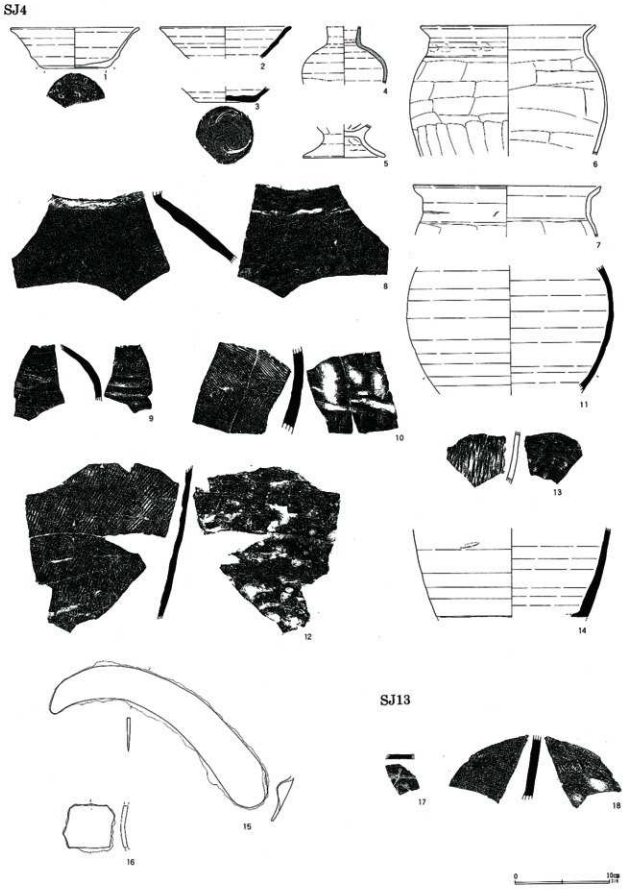
SJ2・4・13



SJ4
1 暗褐色土　灰褐色土ブロックを含み、焼土、炭化物の微細粒を含む
2 灰褐色土　暗褐色土を僅かに含み、焼土、炭化物粒子を含む
3 灰褐色土　暗褐色土をやや含む
4 灰褐色土　暗褐色土を僅かに含み、焼土粒子、炭化物粒子を多く含む
5 灰褐色土　やや砂質の灰褐色土で、焼土等殆ど含まない
SJ2
6 暗褐色土　炭化物、焼土粒子を微量含む
7 暗褐色土　炭化物、焼土粒子、灰褐色土を含む
SJ2カマド
8 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を微量含む
9 灰褐色土　焼土粒子を含む
10 灰褐色土　やや砂質の灰褐色土を含む
11 暗褐色土　炭化物粒子、焼土粒子を多く含む
SJ4カマドA
12 灰褐色土　焼土、炭化物粒子をごく少量含む
13 灰褐色土　炭化物粒子、焼土粒子を多量に含
14 灰褐色土　焼土粒子を含む
SJ4カマドB
15 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子をごく少量含む
16 暗褐色土　5ミリ前後の焼土ブロックを含み、灰褐色土を多く含む
17 暗褐色土　炭化物を含み、黒色土、焼土粒子を多く含む
18 暗褐色土　灰褐色土を多く含み、焼土粒子を少量含む
SJ13
19 暗褐色土　焼土、炭化物の微細粒を含む
SD4
1 暗褐色土　灰褐色土のブロックを多く含む
2 暗褐色土　灰褐色土のブロックを少量含む



第9図　第2・4・13号住居跡と出土遺物



第10図　第４・13号住居跡出土遺物

第２号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(14.2)	4.5	(8.0)		普通	褐灰	破片	三和窯	42-8
2	坏	11.8	4.3	7.0	角	普通	褐灰	60	下総地方　内面ミガキ	
3	椀	(20.0)	(5.9)	—		普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
4	甕	(28.9)	(13.6)	—	針	普通	明褐	25	下総地方	
5	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
6	甕	—	—	—		普通	褐灰	破片	下総地方	

第４号住居跡出土遺物観察表（第10図）

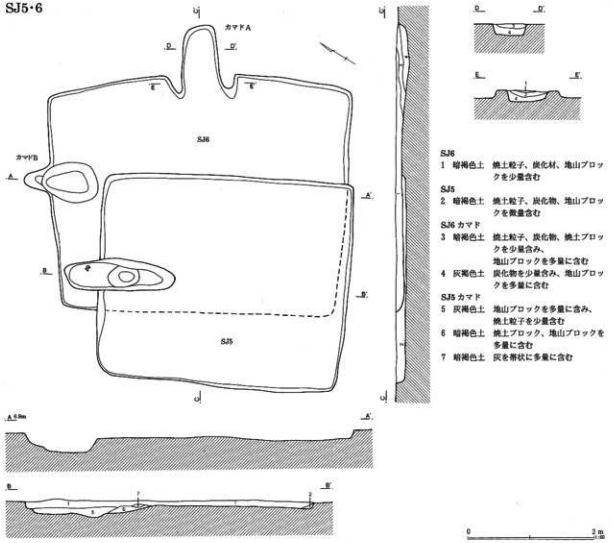
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(13.8)	4.3	(6.5)	角	普通	明褐	40	下総地方	33-6
2	坏	(14.0)	(3.4)	—		普通	灰白	破片	三和窯	
3	坏	—	(1.7)	6.1		良好	灰白	80	東金子窯	
4	小瓶	—	(6.3)	—		良好	灰白	30	東濃産　灰釉陶器	
5	台付甕	—	(3.0)	8.7	角	普通	明褐	85	利根川水系の土	
6	甕	18.1	(13.8)	—	角	普通	明褐	60	利根川水系の土	
7	甕	(20.0)	(5.4)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
8	甕	—	—	—	針	普通	灰白	破片	南比企窯	
9	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
10	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
11	甕	—	(13.7)	—	片	良好	灰白	破片	末野窯	
12	甕	—	—	—	雲	普通	灰白	破片	新治窯	
13	甕	—	—	—		普通	褐灰	破片	下総地方	
14	甕	—	(8.9)	—	片	良好	灰白	破片	末野窯	
15	鎌	長さ25.0、幅4.6cm								
16	鉄製不明品	残存長4.5、幅5.0cm								

第13号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
17	坏	—	—	—	針	良好	青灰	破片	底部外面刻書「本？」南比企窯	
18	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	

第５号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(13.2)	(3.8)	—	角	普通	灰白	破片	三和窯	
2	坏	(13.3)	(3.5)	—		普通	青灰	破片	三和窯	
3	坏	(13.0)	(3.1)	—		良好	青灰	破片	東金子窯	
4	皿	(13.4)	2.1	(6.1)	角雲	普通	明褐	20	下総地方	
5	坏	(13.0)	3.8	(6.7)	角	普通	褐灰	20	下総地方	
6	坏	(13.2)	3.6	(6.3)	角	普通	明褐	20	下総地方	
7	坏	(12.4)	3.7	(7.3)	角	普通	褐	30	下総地方	
8	坏	(13.5)	(3.3)	—	角	普通	明褐	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
9	椀	—	(3.9)	(9.9)	角	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
10	甕	(20.3)	(4.9)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
11	台付甕	—	(3.6)	(10.8)	角雲	普通	明褐	30	利根川水系の土	
12	台付甕	—	(2.8)	(9.1)	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
13	甕	—	—	—	角	良好	灰白	破片	下総地方	
14	甕	—	—	—	雲	普通	灰白	破片	新治窯	
15	甕	—	—	—	角	良好	灰白	破片	下総地方	
16	甕	—	—	—	針	普通	灰白	破片	南比企窯	



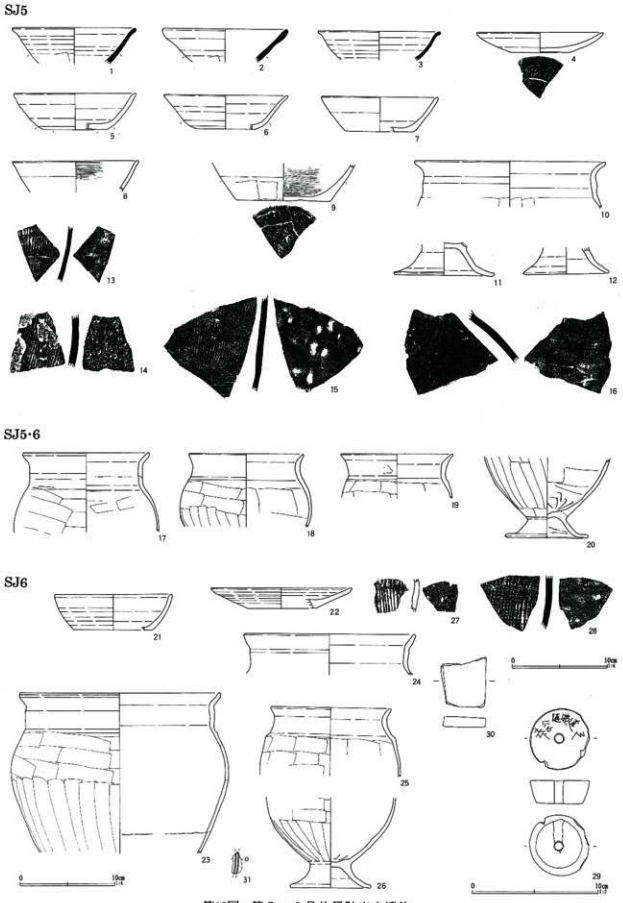
第11図　第５・６号住居跡

第５号・第６号住居跡出土遺物観察表（第12図）

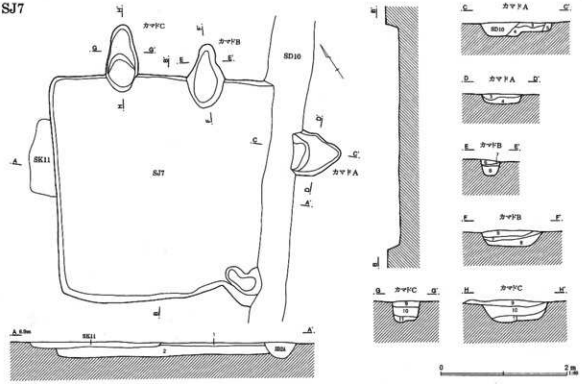
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
17	甕	(13.5)	(8.4)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	35-2
18	甕	(12.2)	(7.8)	—	角	不良	褐	50	利根川水系の土	
19	甕	(12.0)	(4.7)	—	角	普通	褐	25	利根川水系の土	
20	台付甕	—	(8.4)	8.5	角	不良	褐	60	利根川水系の土	

第６号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
21	坏	(12.5)	3.7	(8.2)	角	普通	褐	破片	下総地方	33-2
22	皿	(15.0)	2.1	(7.1)	角雲	普通	明褐	20	下総地方	
23	甕	(21.3)	(17.0)	—	角雲	不良	褐	30	利根川水系の土	
24	甕	(18.3)	(4.3)	—	雲	普通	褐	20	利根川水系の土	
25	甕	(12.8)	(7.2)	—	角雲	普通	褐	30	利根川水系の土	
26	台付甕	—	(9.4)	8.3	角	不良	褐	55	利根川水系の土	
27	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
28	甕	—	—	—	角	普通	灰白	破片	下総地方	
29	紡錘車	大径4.85、小径3.45、孔径0.7、厚1.8cm、重さ63.77g								
30	砥石	残存長5.3cm、幅4.8cm、厚1.0cm、重さ55.21g								
31	鉄製不明品	残存長2.3、幅0.3cm								



第12図　第５・６号住居跡出土遺物



SJ7
1 暗褐色土　灰褐色土の粒子を含み、炭化物、焼土粒子を含む
2 暗褐色土　灰褐色土を多量に含み、焼土粒子、炭化物粒子を含む
カマドA
3 暗褐色土　焼土粒子ブロックを含み、灰褐色土を多く含む
4 暗褐色土　炭化物粒子を多く含み、焼土粒子も含む
5 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子をごく少量含む
カマドB
6 暗褐色土　灰褐色土を多く含み、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む
7 暗褐色土　焼土ブロック、焼土粒子を含む
8 暗褐色土　炭化物粒子、焼土粒子を多量に含む
カマドC
9 暗褐色土　焼土粒子を僅かに含む
10 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を含む
11 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を多量に含む

第13図　第７号住居跡

遺物は須恵器坏、黒色土器坏・椀、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕が出土した。

第６号住居跡は長方形を呈し、長径4.80ｍ、短径3.53ｍ、深さ0.12ｍを測る。主軸方位はＮ－30°－Ｗを測り、カマドは北壁と東壁のほぼ中央部に構築されている。柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀前半代の所産と思われ、遺物は須恵器坏、須恵器皿、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕、紡錘車、鉄製品、砥石が出土した。

第7号住居跡（第13・14図）

Ｇ・Ｈ－８グリッドに位置する。平面形態は方形を呈し、長径3.56ｍ、短径3.53ｍ、深さ0.20ｍを測る。第11号土壙、第10号溝跡に切られている。

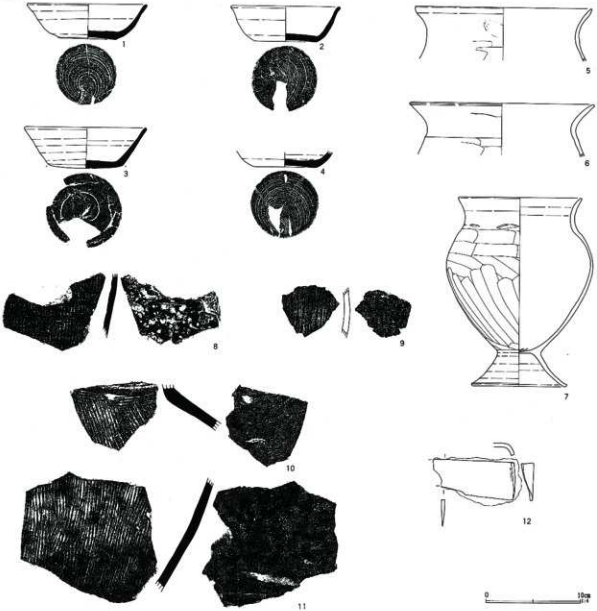
主軸方位はＮ－35°－Ｅを測り、カマドＢとＣは北壁に、カマドＡは東壁に構築されている。柱穴、貯蔵穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀前葉の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕、鎌が出土した。

第８号住居跡（第15・16図）

Ｇ－７・８グリッドに位置する。第40・53号土壙に切られている。平面形態は方形を呈し、長径3.82ｍ、短径3.67ｍ、深さ0.22ｍを測る。

主軸方位はＮ－28°－Ｅを測り、カマドは北壁中央部やや東寄りに構築されている。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、楕円形を呈し長径0.70ｍ、短径0.57ｍ、深さ0.20ｍを測る。壁溝は北西から南西コーナーに巡り、幅0.27ｍ、深さ0.34ｍ程である。中央部北西コーナー寄りに、鍛冶炉が確認された。柱

SJ7

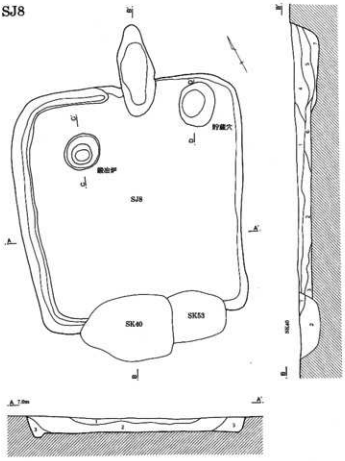


第14図　第７号住居跡出土遺物

第７号住居跡出土遺物観察表（第14図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	12.7	3.7	6.1	片	普通	灰白	70	末野窯	38-7
2	坏	(11.6)	3.7	6.6	針	普通	灰白	40	南比企窯	
3	坏	13.0	4.3	7.9		普通	青灰	70	三和窯	39-9
4	坏	—	(1.6)	(6.6)	片	普通	灰白	破片	末野窯	
5	甕	(18.8)	(5.6)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
6	甕	(19.6)	(5.5)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
7	台付甕	13.0	19.9	(10.1)	角	普通	褐	70	利根川水系の土	34-5
8	甕	—	—	—	雲	普通	灰白	破片	新治窯	
9	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
10	甕	—	—	—	針	普通	灰白	破片	南比企窯	
11	甕	—	—	—	針	普通	灰白	破片	南比企窯	
12	鎌	残存長8.6、幅3.9cm								

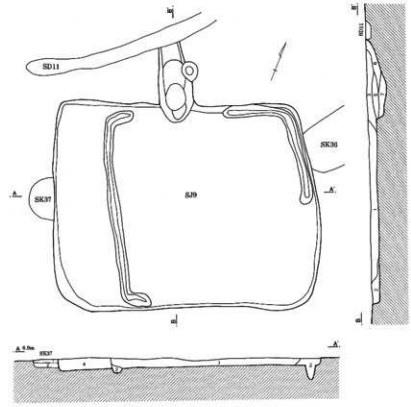
SJ8



SJ8
1 暗 褐 色 土　灰褐色土の粒子を全体に含む
2 黒 褐 色 土　炭化物、焼土粒子を含む
3 暗 褐 色 土　灰褐色土のブロックを多量に含む
4 灰 褐 色 土　カマド天井部、焼土ブロックを少量含む
5 暗 褐 色 土　焼土、炭化物ブロック、灰褐色土ブロックを多量に含む
6 暗 褐 色 土　炭化した黒色土を多量に含む
7 暗 褐 色 土　灰褐色土を多量に含み、焼土ブロックを少量含む
貯蔵穴
8 灰 褐 色 土　焼土粒子をごく僅かに含む
9 暗 褐 色 土　焼土粒子、灰褐色土を含む
10 暗 褐 色 土　炭化物粒子を多量に含み、焼土粒子、灰褐色土を含む
鍛冶炉
11 灰 褐 色 土　砂質で、軟らかくしまりよく、焼土、炭化物を少量含む
12 褐　色　土　砂質で、焼土、炭化物を少量含む
13 暗灰褐色土　砂質で、焼土、炭化物をやや多く含む
14 黒 褐 色 土　炭化物主体で、軟らかくしまり悪い、
黄褐色土ブロックを少量含む
SK40
1 黒　色　土　炭化物の粒子を多く含む
2 暗 褐 色 土　灰褐色土を多量に含む

0　2m

SJ9

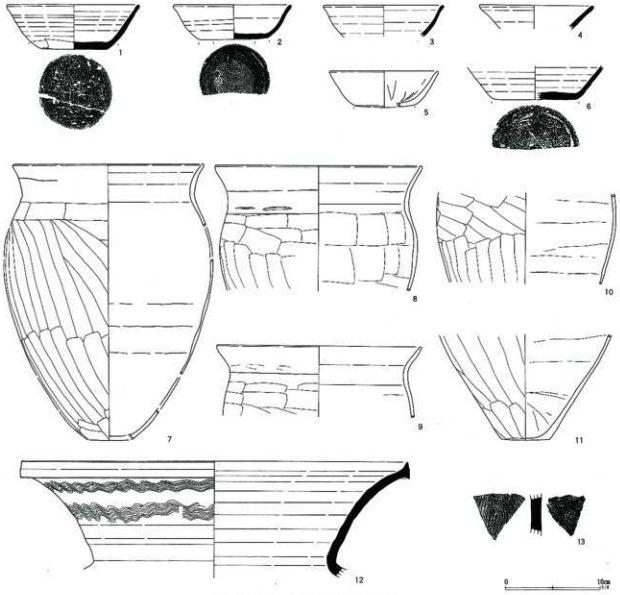


SJ9
1 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を少量含む
2 暗褐色土　灰褐色土を多く含む
3 暗褐色土　カマド天井崩壊部で、灰褐色土を多く含み、焼土粒子、炭化物粒子を少量含む
4 暗褐色土　灰褐色土、炭化物粒子を多く含む
5 暗褐色土　炭化物、焼土を多量に含む
6 暗褐色土　焼土粒子を含む、灰褐色土は3層より少ない
7 暗褐色土　やや大きい焼土ブロックを含み、炭化物粒子を少量含む
SK37
1 暗褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を少量含む
2 暗褐色土　灰褐色土を多く含む

0　2m

第15図　第８・９号住居跡

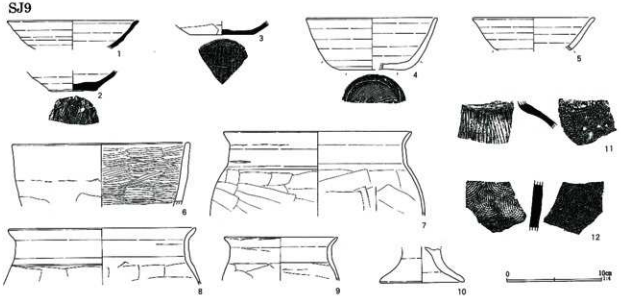
SJ8



第16図　第８号住居跡出土遺物

第８号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	14.2	4.7	7.1	雲	普通	褐灰	50	新治窯	39-5
2	坏	12.6	3.6	7.2	針	普通	青灰	50	南比企窯	37-4
3	坏	(12.8)	(3.3)	—	針	普通	青灰	破片	南比企窯	
4	坏	(12.1)	(2.5)	—		普通	褐灰	破片	東金子窯	
5	坏	(11.6)	(3.8)	(6.2)	角	普通	褐灰	20	利根川水系の土	
6	坏	—	(3.6)	8.6	雲	普通	褐灰	破片	新治窯	
7	甕	(20.3)	29.2	4.7	角	普通	褐	50	利根川水系の土	31-4
8	甕	(22.0)	(13.3)	—	角	普通	褐	40	利根川水系の土	32-2
9	甕	(21.8)	(7.6)	—	角	普通	褐	70	利根川水系の土	32-3
10	甕	—	(9.5)	—	角	普通	褐	35	利根川水系の土	
11	甕	—	(11.1)	5.1	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
12	甕	(41.1)	(12.3)	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	35-3
13	甕	—	—	—	針	普通	灰白	破片	南比企窯	



第17図　第９号住居跡出土遺物

第９号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(14.0)	(3.1)	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
2	坏	—	(2.2)	5.2		良好	青灰	30	東金子窯	
3	坏	—	(1.4)	(7.0)		普通	灰白	25	三和窯	
4	椀	(14.0)	5.5	(7.0)	角	普通	褐灰	35	下総地方	
5	坏	(13.0)	(3.6)	—	角	普通	褐灰	20	下総地方	
6	椀	(19.0)	(6.7)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
7	甕	(20.0)	(9.0)	—	角	普通	褐灰	30	利根川水系の土	
8	甕	(20.0)	(6.0)	—	角	普通	褐灰	20	利根川水系の土	
9	小型甕	(12.0)	(4.6)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
10	台付甕	—	(3.8)	(9.0)	角	普通	褐灰	20	利根川水系の土	
11	甕	—	—	—		普通	灰白	破片	下総地方	
12	甕	—	—	—		良好	青灰	破片	三和窯	

穴は確認されなかった。出土遺物から８世紀後半代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、土師器甕が出土した。

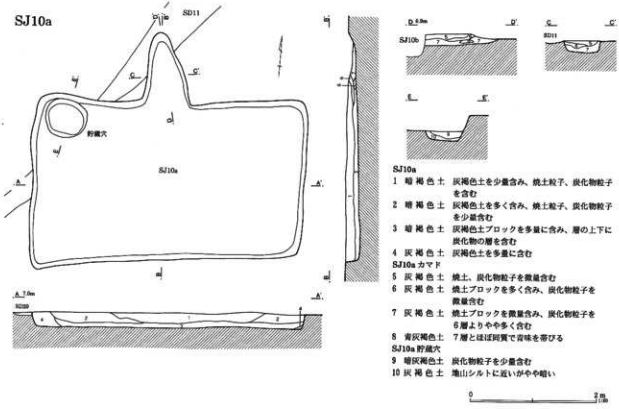
第９号住居跡（第15・17図）

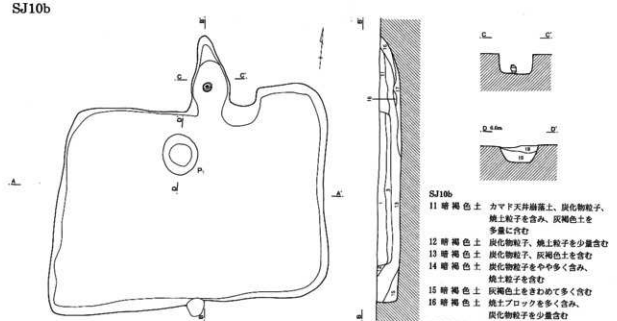
Ｈ・Ｉ－９グリッドに位置する。第36・37号土壙を切り、第11号溝跡に切られている。平面形態は長方形を呈し、長径4.25ｍ、短径3.17ｍ、深さ0.12ｍを測る。建て替え住居と思われ、土層から内側の壁溝部分が新しい住居になるものと思われる。

主軸方位はＮ－25°－Ｗを測り、カマドは北壁中央に設置されている。新しい住居跡の壁溝は北東コーナーと、北西コーナーから南西コーナーに巡り、幅0.18ｍ、深さ0.34ｍ程を測る。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。出土遺物から、９世紀末葉代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、黒色土器椀、土師器甕、土師器台付甕が出土した。

第10a・10b号住居跡（第18・19図）

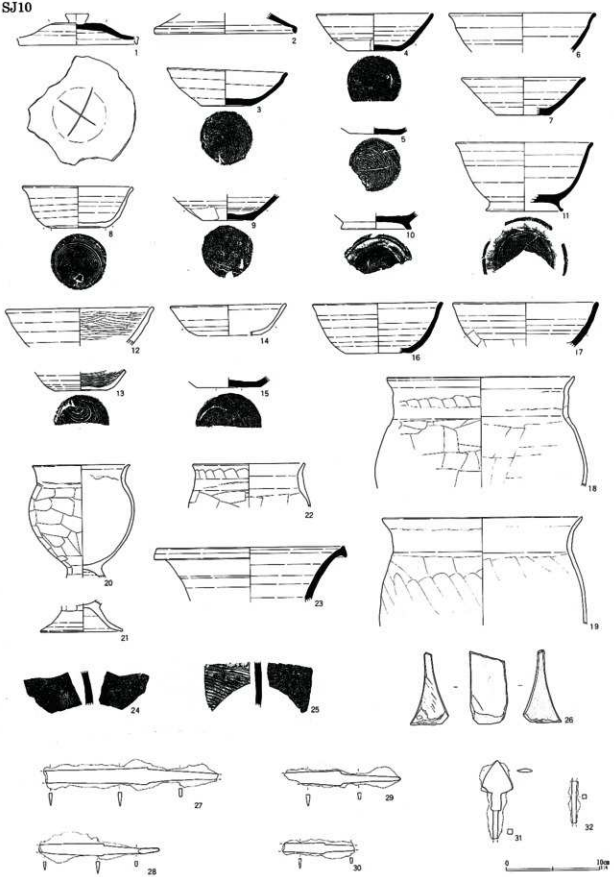
Ｈ－９・10グリッドに位置する。第11号溝跡と重複している。２軒の重複であり、第10a号住居跡の方が新しい。第10a号住居跡は長方形を呈し、長径





第18図 第10a・10b号住居跡

SJ10



第19図　第10号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表（第19図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	蓋	—	(1.7)	—	針	普通	青灰	70	南比企窯 内面ヘラ記号 端部打ち欠く	
2	蓋	(15.2)	(2.2)	—	片	普通	青灰	破片	末野窯	
3	坏	13.0	3.8	5.4	片	普通	青灰	80	末野窯	39-1
4	坏	12.6	4.0	5.8		普通	灰白	30	三和窯	
5	坏	—	(0.8)	5.4	片	普通	灰白	破片	末野窯	
6	坏	(15.7)	(4.2)	—	角片	普通	灰白	破片	末野窯	
7	坏	(13.2)	4.0	(5.8)	片	普通	青灰	20	末野窯	
8	坏	11.9	4.5	5.9	角	普通	褐灰	70	下総地方	41-3
9	坏	—	(2.8)	5.4	角	普通	褐灰	破片	三和窯	
10	高台付椀	—	(1.8)	(7.5)	片	普通	青灰	破片	末野窯	
11	高台付椀	(14.7)	7.4	8.3	片	普通	褐灰	30	末野窯	
12	椀	(15.9)	(4.1)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
13	坏	—	(2.0)	5.7	角	普通	褐灰	40	下総地方　内黒・ミガキ	
14	坏	(12.5)	3.3	(6.9)	角	普通	褐灰	20	下総地方　内外面黒化	
15	坏	—	(1.1)	6.8	角	普通	褐灰	破片	三和窯	
16	坏	(13.9)	5.3	(7.0)	針	不良	褐灰	30	南比企窯	
17	椀	(15.6)	(4.7)	—	角	普通	褐灰	破片	三和窯	
18	甕	(20.2)	(11.8)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
19	甕	(21.5)	(11.5)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
20	台付甕	10.4	(12.1)	—	角	普通	褐灰	90	利根川水系の土	35-1
21	台付甕	—	(3.0)	8.8	角雲	普通	褐灰	90	利根川水系の土	
22	甕	(12.0)	(4.7)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
23	甕	(20.0)	(5.9)	—	針	良好	褐灰	破片	南比企窯	
24	甕	—	—	—	針	良好	灰白	破片	南比企窯	
25	甕	—	—	—	針	良好	灰白	破片	南比企窯	
26	砥石	残存長7.7cm、幅4.0cm、厚4.1cm、重さ103.41g								
27	刀子	残存長12.4、刃幅1.4、背幅0.4cm								
28	刀子	残存長12.9、刃幅1.3、背幅0.4cm								
29	刀子	残存長18.8、刃幅1.5、背幅0.4cm								
30	刀子	残存長7.7、刃幅1.1、背幅0.2cm								
31	鉄鏃	残存長8.3、幅3.2、厚0.4cm								
32	鉄製不明品	残存長4.5、幅0.5cm								

4.36m、短径2.71m、深さ0.23mを測る。

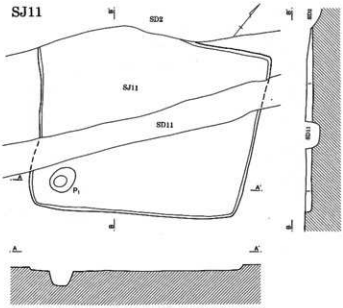
主軸方位はN－3.5°－Wを測り、カマドは北壁中央に構築される。貯蔵穴は北西コーナーに付設され、長径0.65m、短径0.60m、深さ0.15mの円形を呈す。壁溝、柱穴は確認されなかった。出土遺物から、9世紀前半代の所産と思われる。遺物は第10b号住居跡と混在しており、須恵器坏、須恵器甕、土師器坏、土師器甕、土師器台付甕、黒色土器坏・椀、砥石、刀子、鉄鏃が出土した。

第10b号住居跡は長方形を呈し、長径4.40m、短径3.35m、深さ0.38mを測り、主軸方位はN－6°－Wである。カマドは北壁中央に設置されている。ピット1は深さ0.27mを測るが、住居跡に伴わない。貯蔵穴、柱穴、壁溝は確認されなかった。

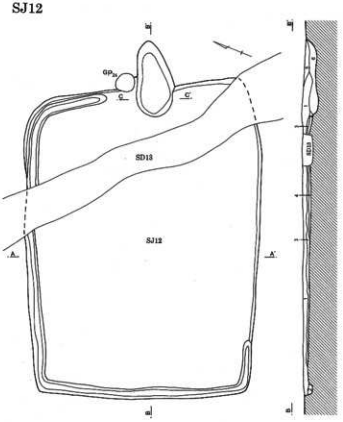
第11号住居跡（第20・21図）

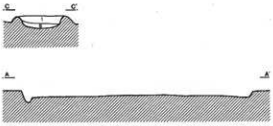
G－10グリッドに位置する。第2・11号溝に切られている。平面形態は東西に細長い長方形で、長径3.70m、短径2.78m、深さ0.10mを測る。

主軸方位はN－39.5°－Wを測り、ピット1は深さ0.23mであるが、住居跡に伴うとは断定できない。カマド、貯蔵穴、柱穴、壁溝は確認されなかった。構築時期は、9世紀後半代の所産と推定される。遺物は須恵器坏、須恵器甕が出土した。



SJ11
1 暗褐色土　灰褐色土ブロックを多量に含み、炭化物を少量含む



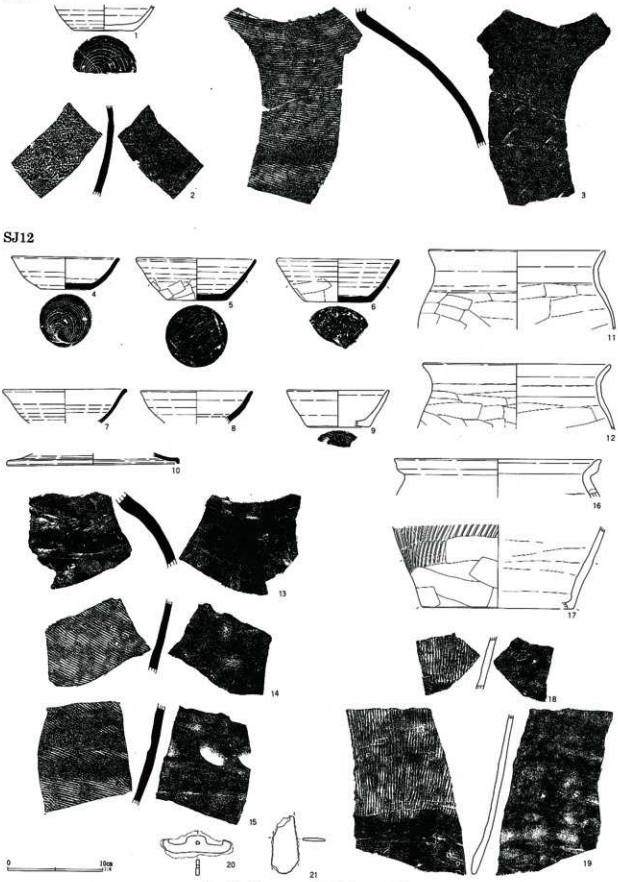


SJ12
1 暗灰褐色土　焼土混じりの土で、粘性強く粒子細い炭化物を含む
2 暗 褐 色 土　粘性強く粒子粗い、炭化物少なく、土器片を多量に含む
3 黄 褐 色 土　床面タタキ、貼り床層で、粘性大変強く粒子細かい
4 暗灰褐色土　炭化物層で、粘性粗く粒子細かい
カマド
5 灰 褐 色 土　焼土粒子等殆ど含まない
6 黒 褐 色 土　焼土粒子、灰褐色土のブロックを多量に含む

第20図　第11・12号住居跡

SJ11

SJ12



第21図　第11・12号住居跡出土遺物

第11号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	—	(2.7)	6.4	角	普通	褐	30	下総地方	
2	甕	—	—	—	片	普通	青灰	破片	末野窯	
3	甕	—	—	—	片	普通	灰白	破片	末野窯	

第12号住居跡出土遺物観察表（第21図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
4	坏	11.5	3.4	5.3	針	良好	青灰	50	南比企窯	37-10
5	坏	12.7	4.4	6.3		普通	青灰	80	三和窯	39-10
6	坏	(12.9)	4.5	(7.0)		普通	褐灰	20	三和窯	
7	坏	(13.0)	(3.6)	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
8	坏	(11.9)	(3.4)	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
9	坏	(10.8)	3.9	(6.4)	角	普通	褐灰	20	下総地方	
10	蓋	(18.2)	(1.2)	—	角片	普通	灰白	破片	末野窯	
11	甕	(18.9)	(8.3)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
12	甕	(19.8)	(6.9)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
13	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
14	甕	—	—	—	片	良好	青灰	破片	末野窯	
15	甕	—	—	—	片	良好	青灰	破片	末野窯	
16	甕	(21.8)	(4.1)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
17	甕	—	(8.9)	(16.1)	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
18	甕	—	—	—	角	普通	褐	破片	下総地方	
19	甕	—	—	—	角	普通	褐	破片	下総地方	
20	火打金	長さ7.2、幅1.7cm								
21	鉄製不明品	残存長6.1、幅2.7cm								

第12号住居跡（第20・21図）

H－10グリッドに位置する。第13号溝跡に切られている。平面形態は東西に細長い長方形で、長径4.98m、短径3.72m、深さ0.08mを測る。

主軸方位はN－68°－Eを測り、カマドは東壁の中央部に構築されている。壁溝は北東コーナーから南東コーナーにかけて巡り、幅0.20m、深さ0.18mを測る。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。出土遺物から、9世紀末葉の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、土師器甕、鉄製品が出土した。

第14号住居跡（第22図）

B－8グリッドに位置する。大半が調査区外にあたり、現存部分で長径3.00m、短径1.78m、深さ0.03mを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。遺物は、出土していない。

第15号住居跡（第22・23図）

E－10・11グリッドに位置する。平面形態はやや南北に細長い長方形で、長径5.48m、短径5.40m、深さ0.10mを測る。

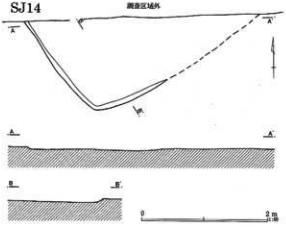
主軸方位はN－25.5°－Eを測り、カマドは北壁のほぼ中央部に構築されている。柱穴は4本柱穴であるが、内3本が確認された。深さはP1＝0.12m、P3＝0.10m、P4＝0.10mである。壁溝は全周に巡り、幅0.20m、深さ0.23m程を測る。貯蔵穴は確認されなかった。

出土遺物から、8世紀中葉代の所産と思われる。遺物は土師器坏、須恵器坏、土師器甕、刀子が出土した。

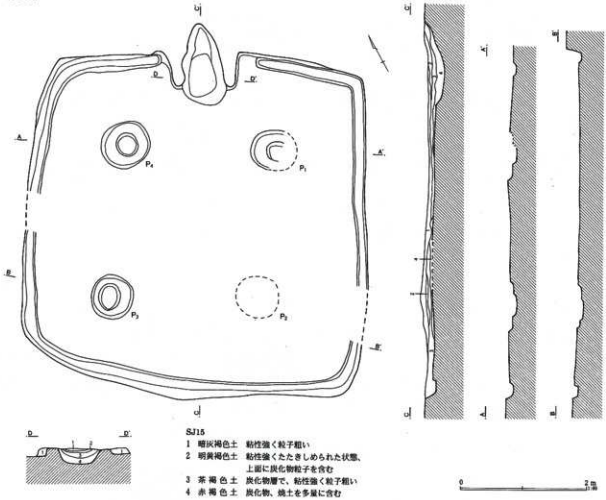
第16号住居跡（第24・25図）

F－11・12、G－11グリッドに位置する。住居内

SJ14

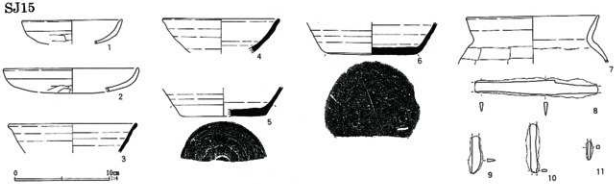


SJ15



第22図 第14・15号住居跡

SJ15



第23図　第15号住居跡出土遺物

第15号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(10.8)	(2.5)	—	角雲	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
2	坏	(14.4)	(2.4)	—	角雲	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
3	坏	(13.7)	(3.1)	—	雲	普通	灰白	破片	新治窯	
4	坏	(12.5)	(3.7)	—		普通	青灰	破片	三和窯	
5	坏	—	(3.0)	(9.0)		良好	青灰	破片	三和窯	
6	坏	—	(3.4)	9.5	片	普通	灰白	破片	末野窯	
7	甕	(14.1)	(5.0)	—	角雲	普通	褐	破片	利根川水系の土	
8	刀子	残存長13.1、刃幅1.4、背幅0.4cm								
9	鉄鏃	残存長3.9、幅0.9、厚0.3cm								
10	鉄製不明品	残存長5.1、幅0.7、厚0.2cm								
11	鉄製不明品	残存長1.9、幅0.3、厚0.3cm								

のカマド焚き口部から中央部にかけて、撹乱を受けている。平面形態は方形で、カマド東側の壁がやや段違いとなるが、長径3.38m、短径3.00m、深さ0.23mを測る。

主軸方位はN－42.5°－Eを測り、カマドは北壁東コーナー寄りに構築されている。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。カマドの東側からコーナーにかけては、棚状施設であった可能性もある。住居跡は、8世紀中葉代の所産と思われる。遺物は土師器坏、須恵器坏、須恵器高台付盤、須恵器甕、土師器甕が出土した。

第17号住居跡（第24図）

G－11グリッドに位置する。平面形態はやや西壁が短い方形で、長径3.35m、短径3.25m、深さ0.15mを測る。

主軸方位はN－37°－Wを測る。カマド、壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。住居跡は出土遺物から、8世紀前半代の所産と思われる。遺物は土師器坏、土師器甕が出土している。

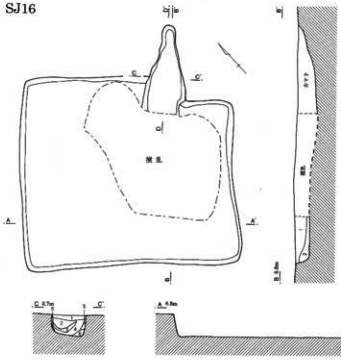
第18号住居跡（第26・27図）

G－12グリッドに位置する。平面形態は東西方向にやや細長い方形で、長径4.67m、短径4.20m、深さ0.26mを測る。

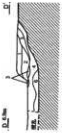
主軸方位はN－47°－Eを測り、カマドは北壁のほぼ中央部に構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

カマドの西側のソデ付近から、土師器甕の口縁部破片が出土した。住居跡は出土遺物から、8世紀後半代の所産と思われる。遺物は少なく、土師器甕の口縁部と底部破片で、同一個体になる可能性が高いものと思われる。

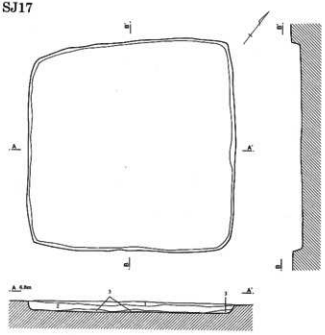
SJ16



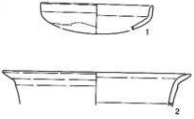
SJ16
1　暗灰褐色土　炭化物を微量含み、粘性大変強く粒子細かい
2　暗茶褐色土　炭化物、焼土を少量含み、粘性大変強く粒子細かい
カマド
3　赤 褐 色 土　焼土層で、炭化物を微量に含む
4　黒 褐 色 土　炭化物層
5　赤 褐 色 土　焼土層、カマド壁面の被熱部
6　黒　色　土　粘性強く、粒子細い



SJ17

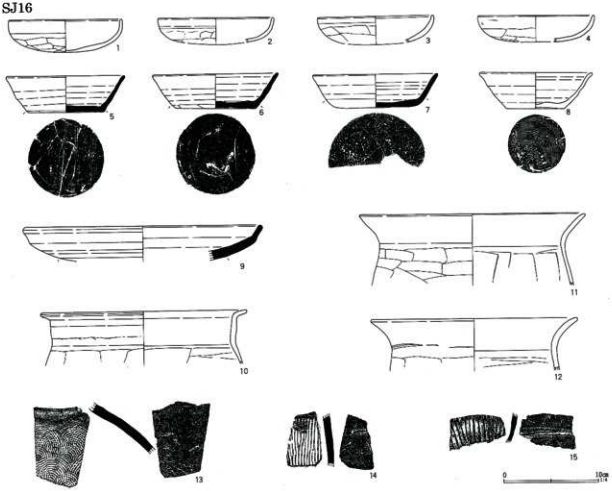


SJ17
1　暗褐色土　灰褐色土を含み、炭化物、焼土粒子を僅かに含む
2　暗褐色土　灰褐色土を多量に含み、炭化物、焼土粒子を僅かに含む
3　暗褐色土　灰褐色土を多量に含み、炭化物、焼土粒子を含む



第24図　第16・17号住居跡と出土遺物

SJ16



第25図　第16号住居跡出土遺物

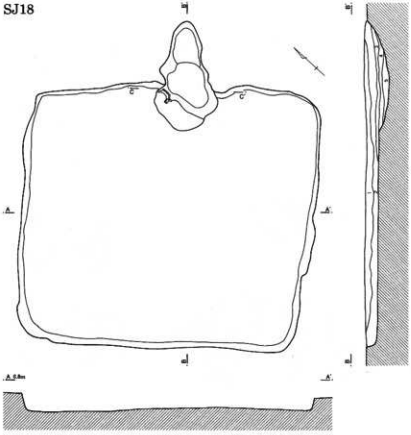
第16号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(12.0)	3.5	—	角	普通	明褐	30	利根川水系の土	
2	坏	(12.3)	(2.5)	—	角	普通	明褐	25	利根川水系の土	
3	坏	(12.3)	(3.0)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
4	坏	(12.3)	(2.8)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
5	坏	12.7	3.8	8.0		普通	青灰	70	三和窯	39-7
6	坏	13.5	3.6	8.5		普通	青灰	80	三和窯	39-8
7	坏	13.2	3.5	8.6	雲	普通	灰白	50	新治窯	39-4
8	坏	12.0	3.8	6.1		普通	褐灰	60	下総地方	41-7
9	坏	(25.2)	(3.8)	—	雲	普通	灰白	破片	新治窯	
10	甕	(21.9)	(5.8)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
11	甕	(23.9)	(7.6)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
12	甕	(21.9)	(5.6)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
13	甕	—	—	—		良好	青灰	破片	三和窯	35-6
14	甕	—	—	—	雲	普通	褐灰	破片	新治窯	
15	甕	—	—	—	雲	普通	褐灰	破片	新治窯	

第17号住居跡出土遺物観察表（第24図）

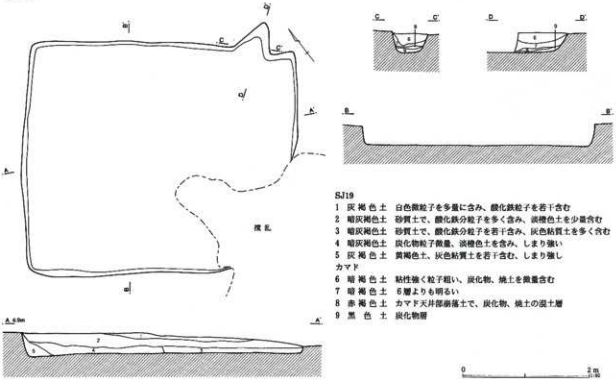
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(12.0)	(2.7)	—	角	普通	明褐	20	利根川水系の土	
2	甕	(20.0)	(3.5)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	

SJ18



SJ18
1 灰 褐 色 土　硬くしまった層で、住居覆土1層と同じ、粘性強く粒子粗い
2 暗灰褐色土　カマド天井部で、粒子の粗い粘質土
3 赤 褐 色 土　焼土層で、粘性強く粒子粗い
4 黒　色　土　炭化物層で、粘性強く粒子粗い
5 淡灰褐色土　焼土粒子を多く含む

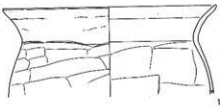
SJ19

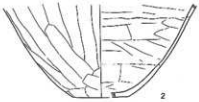


SJ19
1 灰 褐 色 土　白色微粒子を多量に含み、酸化鉄粒子を若干含む
2 暗灰褐色土　砂質土で、酸化鉄分粒子を多く含み、淡橙色土を少量含む
3 暗灰褐色土　砂質土で、酸化鉄分粒子を若干含み、灰色粘質土を多く含む
4 暗灰褐色土　炭化物粒子微量、淡橙色土を含み、しまり強い
5 灰 褐 色 土　黄褐色土、灰色粘質土を若干含む、しまり強し
カマド
6 暗 褐 色 土　粘性強く粒子粗い、炭化物、焼土を微量含む
7 暗 褐 色 土　6層よりも明るい
8 赤 褐 色 土　カマド天井部崩落土で、炭化物、焼土の混土層
9 黒　色　土　炭化物層

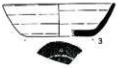
第26図　第18・19号住居跡

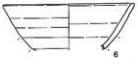
SJ18

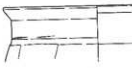




SJ19







第27図　第18・19号住居跡出土遺物

第18号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
1	甕	(22.9)	(9.5)	—	角	普通	褐	35	利根川水系の土	
2	甕	—	(9.8)	(6.0)	角	普通	褐	30	利根川水系の土	

第19号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
3	坏	(11.9)	3.0	(7.0)		良好	青灰	20	東金子窯	
4	坏	—	(1.3)	(6.7)	片	普通	灰白	40	末野窯	
5	坏	(12.0)	4.0	(7.8)	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
6	椀	(14.0)	(4.9)	—	針	普通	褐灰	破片	下総地方	
7	甕	(20.0)	(5.9)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
8	甕	—	—	—		普通	灰白	破片	東金子窯	
9	甕	—	—	—	片	良好	灰白	破片	末野窯	

第19号住居跡（第26・27図）

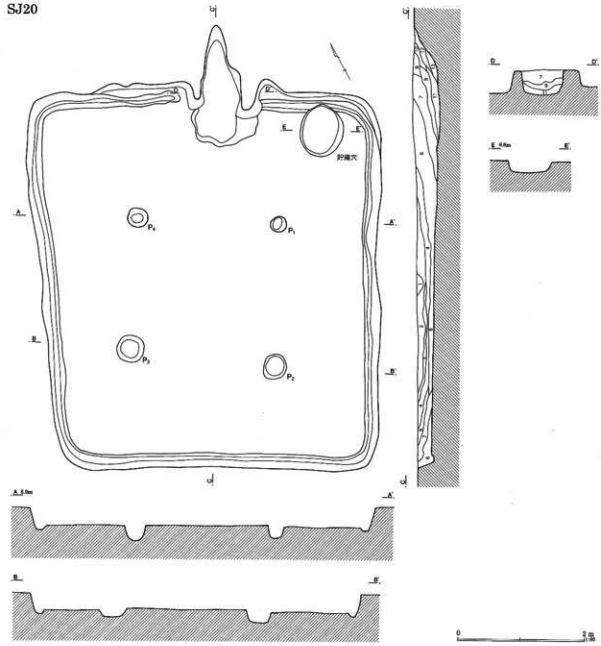
G－10・11、H－11グリッドに位置する。住居跡の南東コーナーに攪乱を受けているが、平面形態は東西方向にやや細長い方形で、長径4.33m、短径3.62m、深さ0.32mを測る。

主軸方位はN－38°－Eを測り、カマドは北壁の東コーナーの近くに構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

住居跡は出土遺物から、9世紀前半代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、土師器甕が出土した。

第20号住居跡（第28・29図）

G・H－6・7グリッドに位置する。平面形態は南北方向にやや細長い長方形で、規模は長径6.05m、短径5.62m、深さ0.30mを測る。



SJ20
1 第10号溝
2 黒　色　土　炭化物粒子を含み、粘性強く粒子細い
3 黒　色　土　赤褐色の焼土粒子を含む
4 黒　色　土　焼土粒子を多く含み、やや粘性強い
5 暗茶褐色土　粘性強く粒子細い
6 暗茶褐色土　5層より明るく、粘性強く粒子細い
7 灰 褐 色 土　焼土粒子、炭化物粒子をごく少量含む
8 灰 褐 色 土　炭化物を微量含み、やや粘性がある

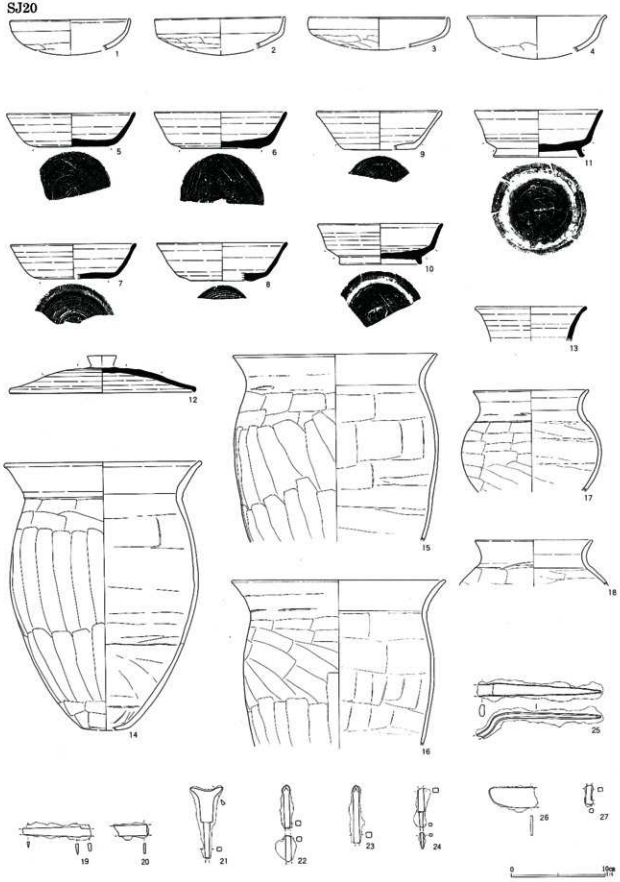
カマド
9 灰 褐 色 土　焼土粒子、焼土ブロックを多量に含み、炭化物粒子を少量含む
10 黒　色　土　炭化物を多量に含む、粘性強く粒子細い
11 黒　色　土　炭化物粒子を多量に含み、焼土粒子を少量含む
12 暗 褐 色 土　粘性強く粒子細い、炭化物粒子を含む
13 黄 褐 色 土　焼土、炭化物を含み、粘性強く粒子細い

第28図　第20号住居跡

主軸方位はN－28°－Eを測り、カマドは北壁のほぼ中央部に構築されている。貯蔵穴は北東コーナーのややカマドよりに付設され、長径0.81m、短径0.67m、深さ0.18mの楕円形を呈する。

柱穴は、4本確認された。深さはP1＝0.20m、P2＝0.19m、P3＝0.11m、P4＝0.24mを測る。

SJ20



第29図　第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(13.0)	(3.2)	—	角	普通	明褐	20	利根川水系の土	
2	坏	(14.0)	(3.2)	—	角	普通	明褐	25	利根川水系の土	
3	坏	(15.0)	(3.1)	—	角	普通	明褐	20	利根川水系の土	
4	坏	(15.0)	(3.6)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
5	坏	14.0	3.5	(8.0)	針	普通	青灰	40	南比企窯	37-2
6	坏	14.4	3.8	8.8		良好	褐灰	40	東金子窯	
7	坏	(13.6)	3.7	(7.2)		普通	灰白	40	東金子窯	
8	坏	(14.0)	4.1	(6.6)		良好	灰白	30	常陸産	
9	坏	(13.5)	4.1	(7.8)		普通	褐灰	30	下総地方	
10	高台付坏	13.4	4.4	8.9		良好	青灰	30	常陸産 底部外面ヘラ記号「×」	
11	高台付坏	13.7	5.0	9.8		普通	灰白	80	常陸産	40-6
12	蓋	(20.0)	(2.7)	—	雲	良好	灰白	破片	新治窯	
13	壷	(11.8)	(3.7)	—		普通	青灰	破片	東金子窯	
14	甕	(21.0)	(28.6)	(5.0)	角	普通	褐	60	利根川水系の土	32-4
15	甕	(22.0)	(20.1)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	32-5
16	甕	(22.8)	(7.9)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	32-6
17	甕	(12.4)	(10.9)	—	角	普通	褐	70	利根川水系の土	
18	壷	(12.6)	(5.0)	—	角	普通	褐	45	利根川水系の土	
19	刀子	残存長7.4、刃幅1.1、背幅0.3cm								
20	鉄製不明品	残存長3.1、幅1.1cm								
21	鉄鏃	残存長7.5、幅3.4、厚0.3cm							雁股鏃	
22	鉄鏃	残存長(8.2)、幅0.8、厚0.5cm								
23	鉄鏃	残存長6.1、幅0.7、厚0.5cm								
24	鉄鏃	残存長(6.4)、幅0.7、厚0.6cm								
25	鉄製不明品	残存長13.2、幅1.3cm								
26	鉄製不明品	残存長4.7、幅2.1cm								
27	鉄製不明品	残存長2.1、幅0.6cm								

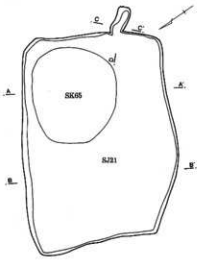
第21号住居跡出土遺物観察表（第30図）

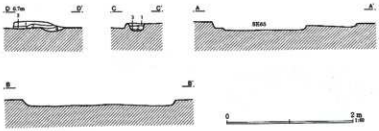
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	鎌	残存長8.0、幅3.9cm								
2	鎌	残存長14.5、幅4.4cm								

第22号住居跡出土遺物観察表（第30図）

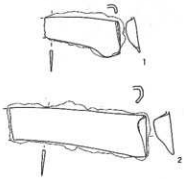
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	13.6	3.7	7.5	角雲	普通	褐灰	70	下総地方	41-8
2	坏	12.2	3.7	7.5	角雲	普通	褐灰	60	下総地方	
3	坏	12.2	4.4	7.0	角雲	普通	褐	50	下総地方	42-5
4	椀	(15.4)	(4.1)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
5	坏	—	(1.3)	5.7	角雲	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
6	高台付椀	—	(2.3)	7.0	角雲	普通	明褐	破片	下総地方	
7	椀	—	—	—		良好	灰白	破片	浜北産 K-90　灰釉陶器	
8	壷	(13.1)	(2.9)	—	片	普通	灰白	破片	末野窯 内面自然釉付着	
9	甕	—	(11.4)	—	針	良好	灰白	破片	南比企窯	
10	甕	(20.1)	(9.8)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
11	甕	(20.3)	(8.9)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
12	甕	(19.1)	(5.0)	—	角雲	普通	褐	破片	利根川水系の土	
13	甕	(32.3)	(9.2)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
14	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
15	鉄製不明品	残存長14.4、幅1.2cm								
16	鉄製不明品	残存長12.6、幅2.7cm								
17	鉄製不明品	残存長8.3、幅2.1cm								

SJ21

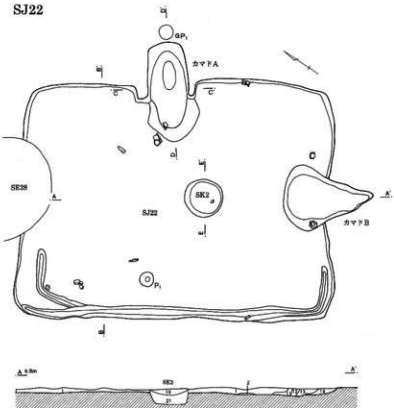


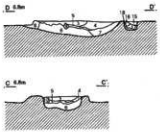


SJ21 カマド
1 灰褐色土　砂質で、淡橙色土を多量に含む
2 暗褐色土　焼土粒子を若干含む
3 灰褐色土　炭灰層
4 灰褐色土　やや砂質

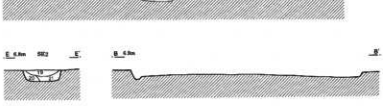


SJ22

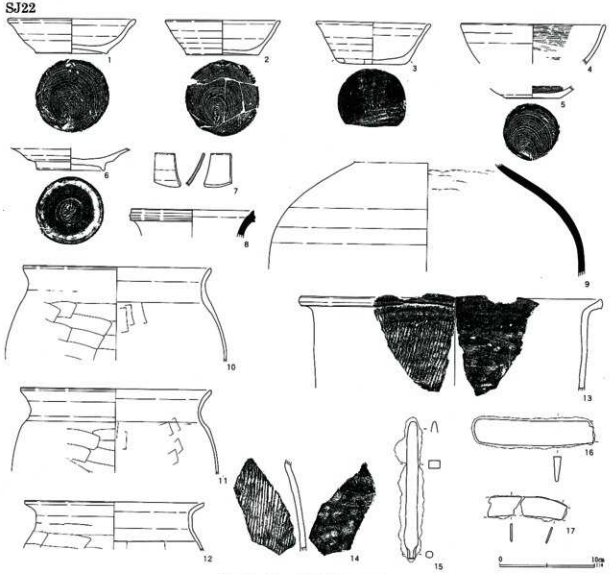




SJ22
1 灰褐色土　砂質シルトで、焼土をやや多く含む
2 褐 色 土　砂質シルト質で、炭化物を多く含む
3 暗褐色土　やや砂質ですき間多く、焼土、炭化物褐色土粒を斑点状に含む
4 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土粒やや多く含む
5 黒褐色土　灰層で、炭化物、焼土を多量に斑状に含む
6 灰褐色土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を部分的に多く含む
7 灰褐色土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含む
8 茶褐色土　砂質シルト質、黒色土と灰色土を斑状に含む
9 褐 色 土　炭化物、焼土をやや多く含む、やや粘質
10 茶褐色土　焼土、炭化物を少量含む
11 灰褐色土　灰色土粒、焼土粒を多く含む
12 灰褐色土　砂質シルト質で、焼土粒を少量含む
13 橙褐色土　やや粘質で、焼土塊、炭化物粒を多量に含む
14 灰褐色土　張り方埋土で、焼土、炭化物は殆どない
15 灰 色 土　灰白土粒少量含み、ややかたくしまりよい
16 褐 色 土　粘質で、焼土粒を少量含む
17 灰褐色土　粘質で、褐色土粒を微かに含む
18 灰 色 土　やや粘質で、焼土粒をやや多く含む
SK2
19 茶褐色土　砂質シルト質で、焼土、炭化物粒をやや多く含む
20 灰褐色土　やや粘質、黒色土と灰色土が斑じった層
21 灰褐色土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含む



5第30図　第21・22号住居跡と出土遺物



第31図　第22号住居跡出土遺物

柱穴の間隔は、P1～P2＝1.94m、P2～P3＝1.95m、P3～P4＝1.76m、P4～P1＝1.97mである。壁溝は、全周に巡り、幅0.22m、深さ0.37m程を測る。

住居跡は出土遺物から、8世紀後半代の所産と思われる。遺物は土師器坏、須恵器坏、須恵器高台付坏、須恵器蓋、須恵器壺、土師器甕、土師器壺が出土した。また、鉄製品では刀子、鉄鏃、用途不明の板状や柱状の鉄製品等が出土した。

第21号住居跡（第30図）

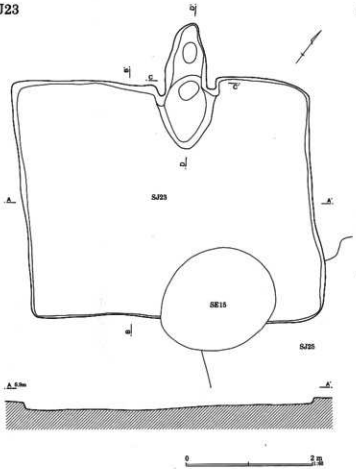
H・I－10・11グリッドに位置する。住居跡中央部から北東コーナーにかけて第65号土壙が重複するが、土壙の方が新しい。平面形態は東西方向に細長い長方形で、規模は長径3.42m、短径2.48m、深さ0.10mを測る。

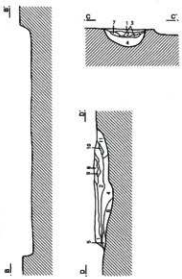
主軸方位はN－123°－Eを測る。カマドは東壁の中央部よりやや南東コーナーよりに構築されているが、燃焼部のみ残存している。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

時期を判定できる遺物が出土していないため、住居跡の構築時期は不詳である。遺物は鉄製の鎌が出土した。

第22号住居跡（第30・31図）

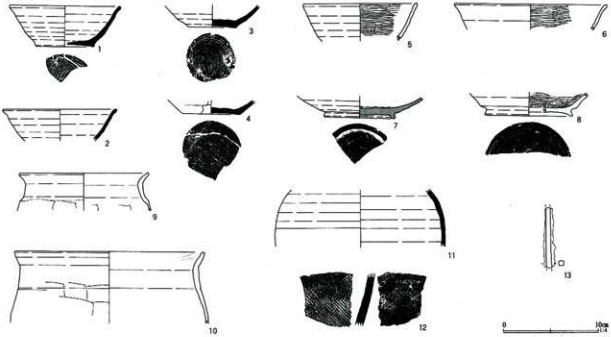
SJ23





SJ23 カマド

1 茶褐色土 砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
2 黒褐色土 焼土、炭化物を多く含む
3 暗灰褐色土 やや粘質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
4 灰褐色土 砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
5 茶褐色土 やや粘質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
6 茶褐色土 やや粘質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
7 褐色土 砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
8 黒褐色土 焼土、炭化物を多く含み、しまりよい
9 黄褐色土 砂質シルト質で、焼土、炭化物を多く含み、しまりよい
10 褐色土 砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
11 黒褐色土 焼土、炭化物を多く含み、しまりよい



第32図　第23号住居跡と出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表（第32図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(11.8)	4.3	(6.0)		良好	灰白	破片	東金子窯	
2	坏	(12.1)	(3.4)	—	片	普通	褐灰	破片	末野窯	
3	坏	—	(2.4)	5.2		良好	褐灰	45	東金子窯	
4	坏	—	(1.5)	6.0	角	普通	褐	55	三和窯	
5	坏	(12.1)	(3.9)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
6	椀	(16.1)	(2.7)	—		普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	
7	高台付皿	—	(2.3)	(7.4)		良好	灰白	25	灰釉陶器 二川窯 K-14 内ハケ塗り 外施釉なし	
8	高台付椀	—	(2.5)	(9.0)	角	普通	褐灰	35	下総地方　内黒・ミガキ	
9	甕	(13.8)	(4.0)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
10	甕	(20.2)	(7.3)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
11	長頸瓶	—	(6.1)	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
12	甕	—	—	—	片	良好	青灰	破片	末野窯	
13	鉄製不明品	残存長6.4、幅0.5cm								

F－8・9グリッドに位置する。1軒の建て替えか、2軒の重複の可能性がある。平面形態は南北方向に細長い長方形で、規模は長径5.00m、短径3.80m、深さ0.08mを測る。住居跡のほぼ中央部に、第2号土壙、北壁の中央部付近に第28号井戸跡と重複するが、いずれも住居跡より新しい。

壁溝の範囲から、同じ軸線を使用するものの、ややずれて2軒が構築されたものと思われる。カマドが2ヶ所に存在するが、調査時点で新旧関係は掴めなかった。東壁中央に構築されたカマドAは、主軸方位をN－57°－Eとし、南壁中央に構築されたカマドBは主軸方位をN－146.5°－Eに採る。

壁溝は北西コーナーから南東コーナーに巡り、部分的に2本構築されており、幅0.20m、深さ0.15mを測る。ピットは1本確認され、P1の深さは0.18mであるが、住居跡に付随するものではないものと思われる。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。遺物は両カマド周辺を中心にして、床面に散在する形で出土している。

住居跡の構築時期は、出土物から9世紀末葉代と想定される。遺物は須恵器坏・高台付皿、須恵器壺・甑、黒色土器坏、灰釉陶器椀、土師器甕が出土した。また、槍先状の鉄製品、鎌等が出土している。

第23号住居跡（第23図）

E－8・F－8・9グリッドに位置する。第25・53号住居跡と重複するが、第25号住居跡より新しく、第53号住居跡との新旧関係は不明瞭である。また、南壁で第15号井戸跡と重複するが、井戸の方が新しい。住居跡の平面形態は東西方向にやや細長い長方形を呈し、規模は長径4.67m、短径3.72m、深さ0.16mを測る。

主軸方位はN－38.5°－Wを測り、カマドは北壁の中央部やや東よりに構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。住居跡は出土遺物から、9世紀後半代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、内面磨きを施す黒色土器坏・高台付椀、灰釉陶器皿、須恵器甕、土師器甕、他に、角柱状の鉄製品が出土した。

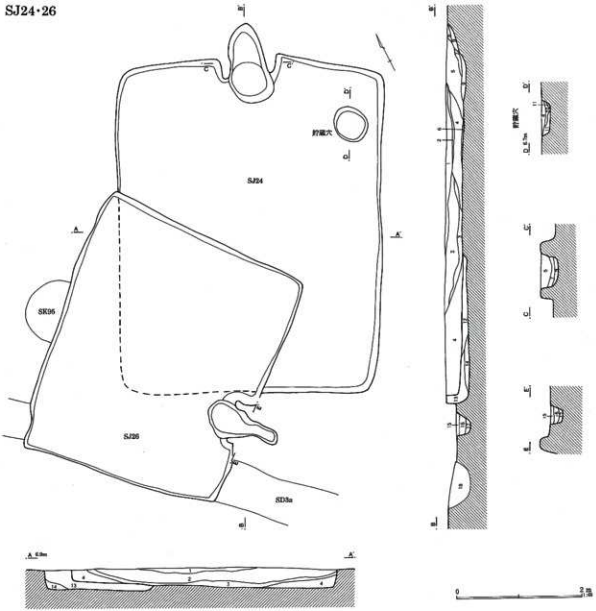
第24・26号住居跡（第33・34図）

G－6グリッドに位置する。第24号住居跡と第26号住居跡は一部重複するが、第24号住居跡の方が新しい。

第24号住居跡の平面形態は南北方向に細長い長方形で、規模は長径5.37m、短径4.18m、深さ0.24mを測る。

主軸方位はN－27°－Eを測り、北壁のほぼ中央部にカマドが構築されている。貯蔵穴は北東コーナー付近の北壁よりやや離れて付設されており、長径

SJ24・26

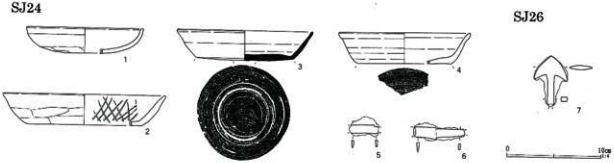


SJ24
1 暗 褐 色 土　暗い層で、黒色のブロックを含み、粘性あり
2 明黄褐色土　砂質で、黒色のブロックを殆ど含まず、粘性弱い
3 暗 褐 色 土　砂質で、黒色のブロックを多量に含み、粘性強い
4 黄 褐 色 土　砂質で、黒色のブロックを殆ど含まず、粘性強い
5 灰 褐 色 土　黒色の炭化物、焼土を含む
6 茶 褐 色 土　硬質で、貼り床
カマド
7 赤 褐 色 土　カマド焼土層で、天井部
8 赤 褐 色 土　カマド焼土層で、天井部
9 黒　色　土　カマド燃焼部で、焼土、炭化物を含み、粘性弱い
貯蔵穴
10 黒　色　土　炭化物層
11 黄 褐 色 土　貯蔵穴最下層の土で、炭化物、粘性強いブロックを含む

SJ26
12 黄褐色土　粘性強く粒子粗い
13 黄褐色土　粘性強く粒子粗い、炭化物、焼土を含む
14 暗褐色土　カマド燃焼部で、粘性強く粒子粗い、焼土粒子、炭化物粒子を含む
カマド
15 黄褐色土　粘性強く粒子細かい、炭化物、焼土含まない
16 赤褐色土　焼土層で、粘性弱く粒子粗い、カマド天井部
17 黒 色 土　炭化物を含む、灰層

SD3a
18 暗褐色土　粘性強く、粒子粗い

第33図　第24・26号住居跡



第34図　第24・26号住居跡出土遺物

第24号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
1	坏	(12.4)	(2.7)	—	角	普通	褐	40	利根川水系の土	36-3
2	坏	(17.2)	3.2	(12.0)	角	普通	褐	破片	利根川水系の土　内面暗文	
3	坏	14.4	3.1	10.4	針	普通	青灰	60	南比企窯	37-1
4	坏	(13.9)	3.3	(10.0)	雲	普通	褐灰	破片	新治窯	
5	刀子	残存長3.1、刃幅0.8、背幅0.2cm								
6	刀子	残存長5.4、刃幅1.0、背幅0.3cm								

第26号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
7	鉄鎌	残存長5.3、幅3.5、厚0.4cm								

0.57m、短径0.50m、深さ0.13mの円形である。壁溝、柱穴は確認されなかった。

住居跡は出土遺物から、8世紀前半代の所産と思われる。遺物は土師器坏、暗文を持つ土師器坏、須恵器坏、刀子が出土した。

第26号住居跡は第95号土壙、第3a溝跡と重複するが、住居跡の方が古い。住居跡の平面形態は南北方向に細長い長方形で、規模は長径4.24m、短径3.54m、深さ0.32mを測る。

主軸方位はN－136°－Eを測り、東壁の中央部南よりにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。時期判定のできる遺物が出土していないため、住居跡の構築時期は不明である。遺物は鉄鎌が1点検出されている。

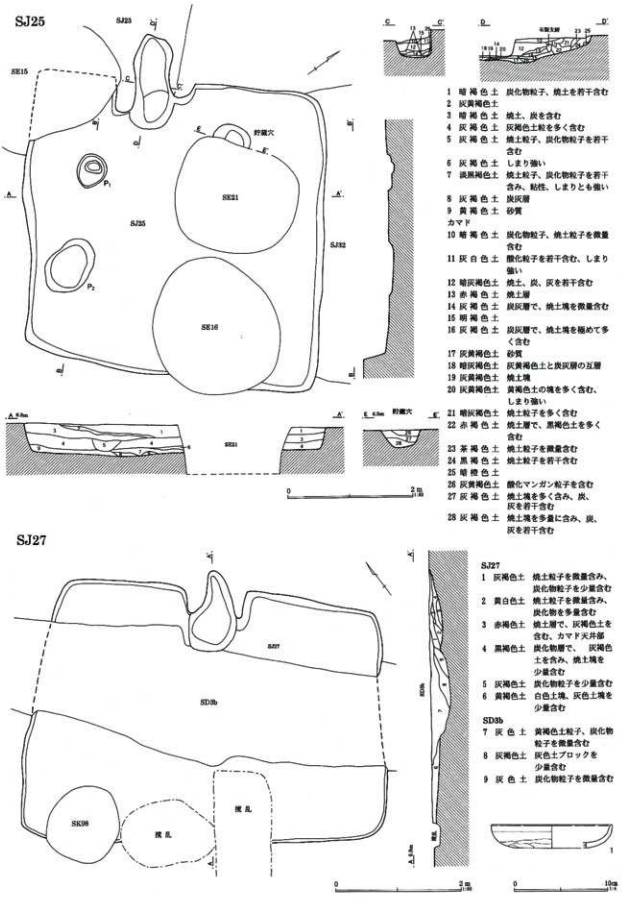
第25号住居跡（第35・36図）

E－9・F－8・9グリッドに位置する。第23・32号住居跡と重複し、第23号住居跡より古く、第32号住居跡より新しい。また、第15・16・21号井戸跡と重複するが、本住居跡の方が古い。

住居跡の平面形態は若干歪むがほぼ方形を呈し、規模は長径4.82m、短径4.77m、深さ0.40mを測る。

主軸方位はN－55°－Wを測り、西壁の中央部西よりにカマドが構築されている。貯蔵穴は北東コーナーからやや内側に離れて付設されており、第21号井戸に攪乱されている。長径0.61m、短径0.27m、深さ0.27mを測る。ピットは2本確認されたが、本住居跡に伴うものかは不明である。深さはP1＝0.10m、P2＝0.07mである。壁溝は、確認されていない。

住居跡の構築時期は、出土遺物から9世紀前半頃と思われる。遺物は須恵器坏、黒色土器坏、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕、刀子、鉤状の鉄製品が出土した。



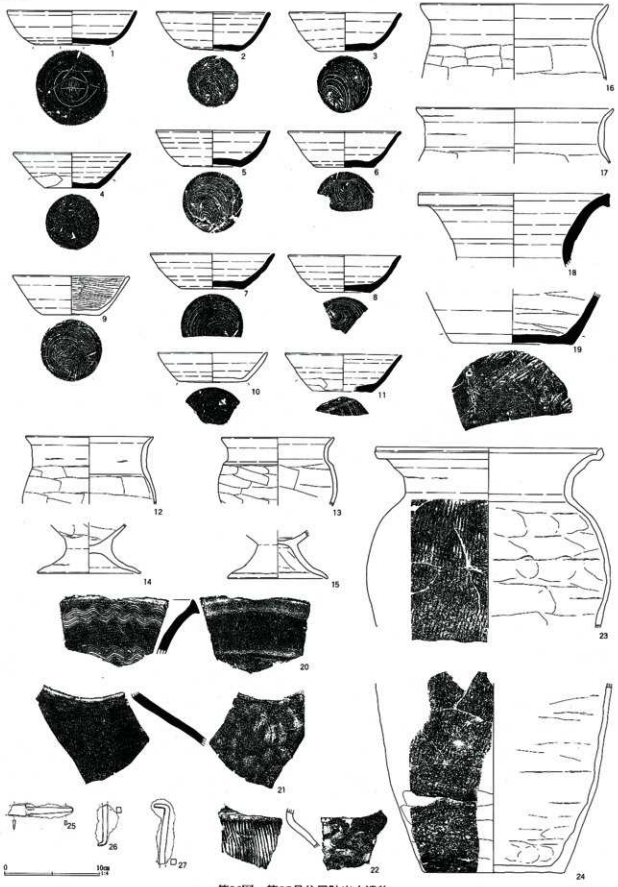
1 暗褐色土 炭化物粒子、焼土を若干含む
2 灰黄褐色土
3 暗褐色土 焼土、炭を含む
4 灰褐色土 灰褐色土粒を多く含む
5 灰褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を若干含む
6 灰褐色土 しまり強い
7 淡黒褐色土 焼土粒子、炭化物粒子を若干含み、粘性、しまりとも強い
8 灰褐色土 炭灰層
9 黄褐色土 砂質
カマド
10 暗褐色土 炭化物粒子、焼土粒子を微量含む
11 灰白色土 酸化粒子を若干含む、しまり強い
12 暗灰褐色土 焼土、炭、灰を若干含む
13 赤褐色土 焼土層
14 灰褐色土 炭灰層で、焼土塊を微量含む
15 明褐色土
16 灰褐色土 炭灰層で、焼土塊を極めて多く含む
17 灰黄褐色土 砂質
18 暗灰褐色土 灰黄褐色土と炭灰層の互層
19 灰黄褐色土 焼土塊
20 灰黄褐色土 黄褐色土の塊を多く含む、しまり強い
21 暗灰褐色土 焼土粒子を多く含む
22 赤褐色土 焼土層で、黒褐色土を多く含む
23 茶褐色土 焼土粒子を微量含む
24 黒褐色土 焼土粒子を若干含む
25 暗褐色土
26 灰黄褐色土 酸化マンガン粒子を含む
27 灰褐色土 焼土塊を多く含み、炭、灰を若干含む
28 灰褐色土 焼土塊を多量に含み、炭、灰を若干含む

SJ27
1 灰褐色土 焼土粒子を微量含み、炭化物粒子を少量含む
2 黄白色土 焼土粒子を微量含み、炭化物を多量含む
3 赤褐色土 焼土層で、灰褐色土を含む、カマド天井部
4 黒褐色土 炭化物層で、灰褐色土を含み、焼土塊を少量含む
5 灰褐色土 炭化物粒子を少量含む
6 黄褐色土 白色土塊、灰色土塊を少量含む

SD3b
7 灰色土 黄褐色土粒子、炭化物粒子を微量含む
8 灰褐色土 灰色土ブロックを少量含む
9 灰色土 炭化物粒子を微量含む

第35図 第25・27号住居跡と出土遺物

SJ25



第36図　第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	13.7	3.6	8.0	針	良好	青灰	60	南比企窯 底部外面刻書「本」	37-3
2	坏	12.0	4.0	5.4	針	普通	青灰	75	南比企窯	37-7
3	坏	11.8	4.1	5.7	片	良好	青灰	85	末野窯	38-8
4	坏	12.3	3.7	5.8		普通	灰白	60	三和窯	40-1
5	坏	12.0	3.8	6.1	針	普通	青灰	95	南比企窯	37-6
6	坏	(11.9)	3.8	6.2	針	普通	灰白	30	南比企窯	
7	坏	(13.1)	3.8	6.6	針	普通	灰白	45	南比企窯	37-8
8	坏	(11.9)	4.0	(5.4)	針	普通	灰白	20	南比企窯	
9	坏	12.4	4.1	6.2	角	普通	褐	60	下総地方　内黒・ミガキ	42-9
10	坏	(11.6)	3.1	(7.2)	角	普通	褐灰	30	下総地方	42-4
11	坏	(12.3)	3.9	(6.3)	角	普通	褐灰	20	三和窯	
12	甕	13.5	(7.1)	—	角	普通	褐	70	利根川水系の土	
13	甕	(11.9)	(7.2)	—	角	不良	褐	30	利根川水系の土	
14	台付甕	—	(5.4)	10.8	角	普通	褐	60	利根川水系の土	
15	台付甕	—	(5.1)	10.5	角	普通	褐	70	利根川水系の土	
16	甕	(19.8)	(8.0)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
17	甕	(20.8)	(5.8)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
18	甕	(20.0)	(7.8)	—	針	良好	青灰	25	南比企窯	
19	甕	—	(5.7)	(12.8)	針	良好	青灰	35	南比企窯	
20	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
21	甕	—	—	—	針	良好	青灰	破片	南比企窯	
22	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
23	甕	(23.9)	(19.1)	—	雲	普通	褐灰	30	新治窯　SJ 23と接合	35-5
24	甕	—	(20.0)	14.8	雲	普通	褐灰	60	新治窯　SJ 23と接合	
25	刀子	残存長6.9、刃幅1.0、背幅0.3cm								
26	釘	残存長4.0、幅0.5cm								
27	釘？	残存長6.3、幅0.5cm								

第27号住居跡出土遺物観察表（第35図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(12.9)	(2.5)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	

第27号住居跡（第35図）

H－5・6グリッドに位置する。南壁で第98号土壙と重複し、住居跡中央部の東西方向に第３b号溝跡と重複する。何れも住居跡の方が古い。また、南壁中央部付近に撹乱を受けている。

住居跡の平面形態は東西方向に細長い長方形で、規模は長径5.83ｍ、短径4.16ｍ、深さ0.07ｍを測る。

主軸方位はＮ－35.5°－Ｅを測り、北壁のほぼ中央部にカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

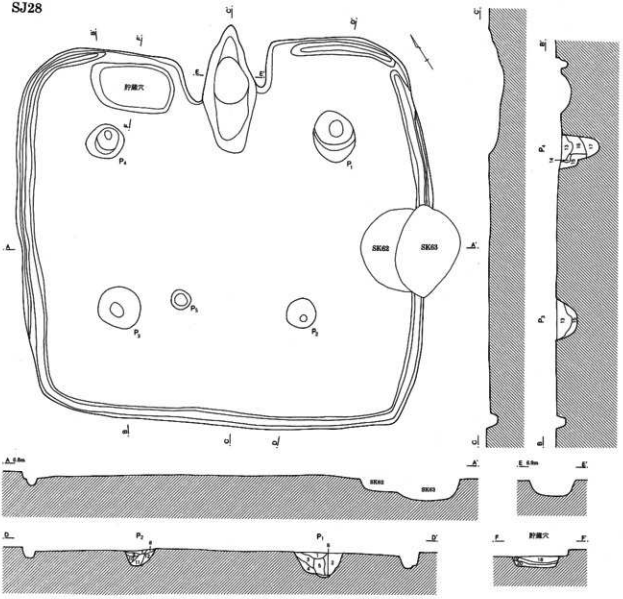
住居跡は、出土遺物が少なく時期を推定することが困難であるが、９世紀前葉代が推定される。遺物は、土師器坏が出土した。

第28号住居跡（第37・38図）

G・H－4・5グリッドに位置する。東壁ほぼ中央部において第62・63号土壙と重複するが、住居跡の方が古い。

住居跡の平面形態は若干東西方向に細長く隅のやや丸い方形を呈し、規模は長径6.65ｍ、短径6.20ｍ、深さ0.05ｍを測る。

主軸方位はＮ－31.5°－Ｅを測り、北壁ほぼ中央部にカマドが構築されている。貯蔵穴はカマド西側で北西コーナーとの中間部あたりに付設され、東西に細長い楕円形を呈し、長径1.34ｍ、短径0.75ｍ、深さ0.18ｍを測る。壁溝は全周に巡り、幅0.22ｍ、深さ0.21ｍを測る。



SJ28

Pit1

1 灰 褐 色 土　砂質シルト質で、黒色土を若干含み、しまりよい
2 茶 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
3 茶 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
4 褐　色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
5 褐　色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、非常にしまりよい
6 暗 灰 色 土　やや青味を帯び、非常にしまりよい

Pit2

7 暗 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
8 暗 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
9 茶 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
10 褐　色 土　砂質シルト質で、しまりよく、鉄分粒が斑状に多く見える
11 褐　色 土　やや粘質で、焼土、炭化物を少量含み、灰色粘質土をやや多く含む
12 茶 褐 色 土　砂質シルト質で、鉄分粒を斑状に含む

Pit3・4

13 褐　色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
14 褐　色 土　黄褐色土ブロックを含み、しまりよい
15 茶 褐 色 土　やや粘質で、鉄分粒を含む
16 灰 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物を少量含み、しまりよい
17 暗灰色粘質土　やや青味を帯び、非常にしまりよい

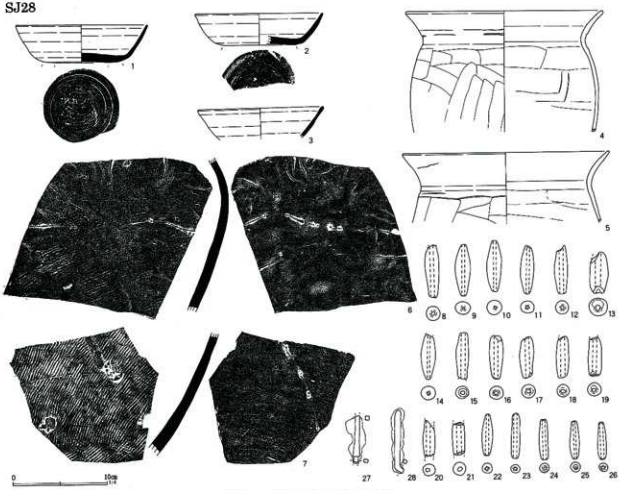
貯蔵穴

18 茶 褐 色 土　砂質シルト質で、焼土、炭化物をやや多く含み、しまりよい
19 黒　色 土　炭化物主体で、焼土、炭化物をやや多く含む
20 褐　色 土　やや粘質で、暗灰色土、焼土、炭化物をやや多く含む

0　2m

第37図　第28号住居跡

SJ28



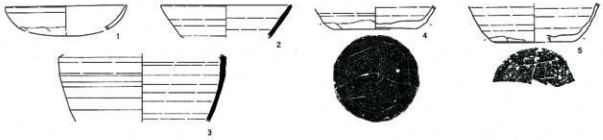
第38図　第28号住居跡出土遺物

第28号住居跡出土遺物観察表（第38図）

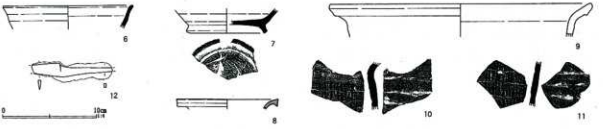
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	14.0	4.0	8.2		普通	灰白	60	常陸産	40-7
2	坏	(13.5)	3.8	(7.7)		普通	灰白	40	常陸産	40-8
3	坏	(13.3)	(3.3)	—	針	良好	褐灰	25	南比企窯	
4	甕	(20.8)	(12.8)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
5	甕	(21.9)	(7.6)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
6	甕	—	—	—		普通	青灰	破片	東海産	
7	甕	—	—	—		普通	青灰	破片	東海産	
8	土錘	長(5.5)、直径1.5、孔径0.4cm、重さ12.43g						90		
9	土錘	長5.4、直径1.6、孔径0.2cm、重さ10.54g						100		
10	土錘	長5.4、直径1.5、孔径0.3cm、重さ11.27g						100		
11	土錘	長5.1、直径1.4、孔径0.3cm、重さ8.62g						100		
12	土錘	長5.1、直径1.4、孔径0.4cm、重さ9.31g						90		
13	土錘	長4.4、直径1.9、孔径0.5cm、重さ15.60g						80		
14	土錘	長(4.7)、直径1.5、孔径0.2cm、重さ9.12g						90		
15	土錘	長(4.9)、直径1.3、孔径0.4cm、重さ8.51g						90		
16	土錘	長4.5、直径1.4、孔径0.4cm、重さ8.83g						90		
17	土錘	長4.3、直径1.4、孔径0.4cm、重さ8.96g						90		
18	土錘	長4.3、直径1.3、孔径0.5cm、重さ7.96g						80		
19	土錘	長4.1、直径1.4、孔径0.4cm、重さ8.87g						90		
20	土錘	長3.8、直径1.3、孔径0.5cm、重さ5.86g						70		

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
21	土錘	長3.4、直径1.3、孔径0.5cm、重さ6.64g						60		
22	土錘	長4.4、直径1.0、孔径0.3cm、重さ5.17g						100		
23	土錘	長4.8、直径0.9、孔径0.3cm、重さ3.79g						100		
24	土錘	長4.3、直径1.0、孔径0.2cm、重さ4.45g						100		
25	土錘	長4.0、直径1.0、孔径0.2cm、重さ3.65g						100		
26	土錘	長4.0、直径0.9、孔径0.4cm、重さ3.22g						100		
27	鉄鎌？	残存長5.0、幅0.7、厚0.4cm								
28	鉄製不明品	残存長6.7、幅0.6cm								

SJ29



SJ30



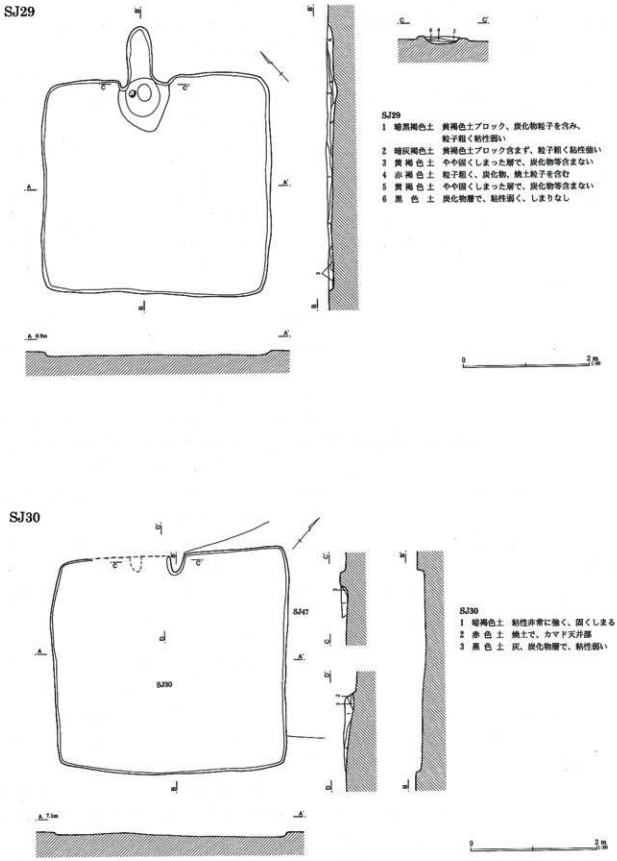
第39図　第29・30号住居跡出土遺物

第29号住居跡出土遺物観察表（第39図）

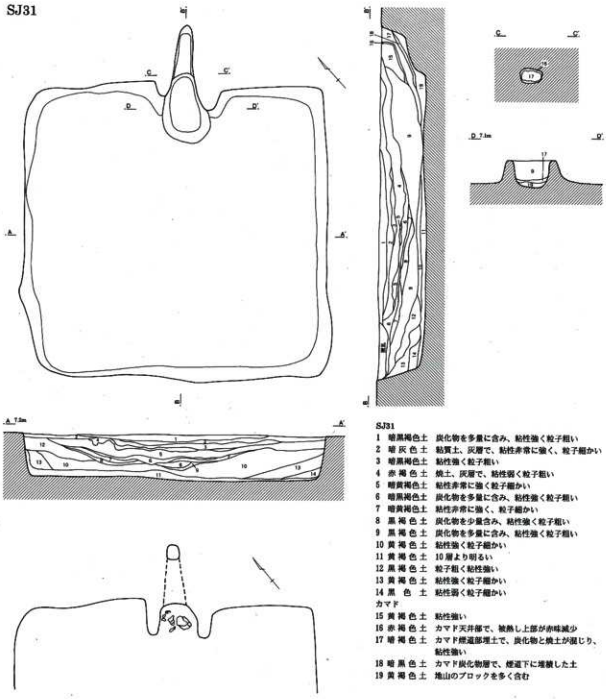
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(13.0)	(2.6)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
2	坏	(13.9)	(3.5)	—	針	普通	灰白	破片	三和窯	
3	長頸瓶	—	(7.3)	—		良好	青灰	破片	東金子窯	
4	坏	—	(2.4)	9.0	雲	普通	褐灰	80	新治窯	
5	坏	—	(4.1)	(8.4)	雲	普通	褐灰	30	新治窯	

第30号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
6	坏	(14.0)	(2.5)	—	針	普通	青灰	破片	南比企窯	
7	高台付椀	—	(2.6)	(8.0)	片	良好	青灰	35	末野窯	
8	長頸瓶	(10.9)	(1.1)	—		良好	褐灰	破片	東濃産　灰釉陶器	
9	甕	(28.0)	(3.5)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
10	甕	—	—	—	角	普通	灰白	破片	下総地方	
11	甕	—	—	—	角	普通	灰白	破片	下総地方	
12	刀子	残存長8.6、刃幅1.0、背幅0.3cm								



第40図 第29・30号住居跡



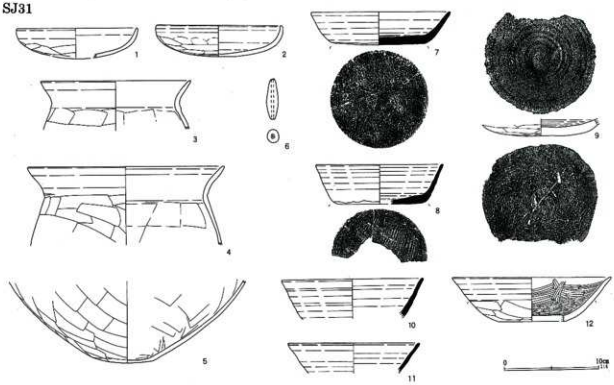
第41図　第31号住居跡

ピットは5本確認されたが、P1～P4までが柱穴と思われる。柱穴の深さはP1＝0.37m、P2＝0.24m、P3＝0.13m、P4＝0.59m、P5＝0.05mである。P1～P2＝2.19m、P2～P3＝2.30m、P3～P4＝2.06m、P4～P1＝3.03mを測る。

住居跡は出土遺物から、8世紀中葉代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器甕、土師器甕、鉤状の鉄製品、土錘が多量に出土した。

第29号住居跡（第39図）

SJ31



第42図　第31号住居跡出土遺物

第31号住居跡出土遺物観察表（第42図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	12.8	(3.2)	—	角	普通	明褐	70	利根川水系の土	36-4
2	坏	13.3	3.3	—	角	普通	明褐	80	利根川水系の土	36-5
3	甕	(15.9)	(5.3)	—	角雲	普通	褐	破片	利根川水系の土	
4	甕	(20.8)	(8.4)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
5	甕	—	(8.6)	6.5	角雲	普通	褐	20	利根川水系の土	
6	土錘	長さ4.3, 直径1.4, 孔径0.2cm, 重さ5.73g								
7	坏	14.7	3.5	9.8	雲	普通	青灰	60	新治窯	
8	坏	(12.9)	4.2	9.0	雲	普通	灰白	40	新治窯	
9	椀	—	(1.8)	—		普通	褐灰	90	下総地方	
10	坏	(15.0)	(4.2)	—		良好	青灰	破片	東金子窯	
11	坏	(14.0)	(3.2)	—	片	良好	青灰	破片	末野窯	
12	坏	(16.8)	4.6	(7.0)		普通	褐灰	破片	下総地方　内黒・ミガキ	

F－4・G－4・5グリッドに位置する。住居跡の平面形態は方形で、規模は長径3.62m、短径3.53m、深さ0.06mを測る。

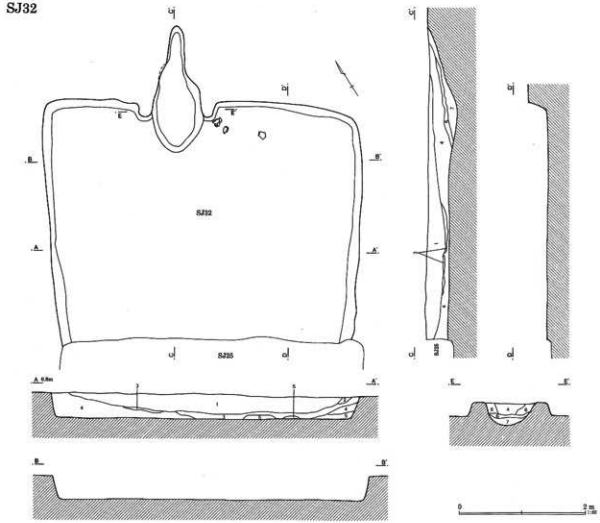
主軸方位はN－42°－Eを測り、北壁の中央部やや西寄りにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

出土遺物が少なく、住居跡の構築時期を決め難いが、8世紀後半代を想定しておきたい。遺物は土師器坏、須恵器坏、須恵器長頸瓶が出土した。

第30号住居跡（第39図）

I・J－5・6グリッドに位置する。第47号住居跡と重複するが、本住居跡の方が新しい。住居跡の平面形態はほぼ方形で、規模は長径3.75m、短径3.50m、深さ0.10mを測る。

主軸方位はN－40.5°－Wを測り、北壁の中央部



第43図　第32号住居跡と出土遺物

西寄りにカマドが構築されている。カマドは大半が撹乱により、壊されていた。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

住居跡は出土遺物から、9世紀前葉代の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器高台付椀、須恵器甕、灰釉陶器、刀子が出土した。

第31号住居跡（第41・42図）

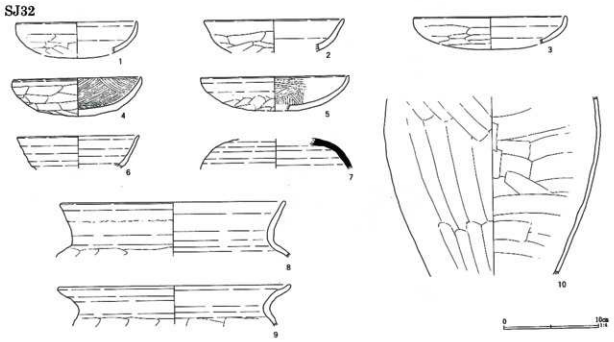
J－4・5グリッドに位置する。住居跡の平面形態はほぼ方形で、規模は長径4.84m、短径4.65m、深さ0.75mを測り、比較的深く掘り込まれたしっかりとした住居跡である。

主軸方位はN－42°－Eを測り、北壁のほぼ中央部にカマドが構築されている。カマドは残りが良く、煙道部の天井は遺存していた。壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

住居跡は、出土遺物から8世紀代前半の所産と思われる。遺物は土師器坏、須恵器坏、黒色土器坏、土師器甕、土錘が出土した。

第32号住居跡（第43・44図）

E・F－9グリッドに位置する。南壁部分で第25



第44図　第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物観察表（第44図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(12.7)	(3.3)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
2	坏	(15.0)	(3.5)	—	角	普通	褐	20	利根川水系の土	
3	坏	(16.1)	(2.9)	—	角片	普通	褐	40	利根川水系の土	
4	坏	13.5	4.0	—	角片	普通	明褐	50	利根川水系の土　内面ミガキ	
5	坏	(15.8)	(3.6)	—	角	普通	明褐	20	利根川水系の土　内面ミガキ	
6	坏	(12.9)	(3.4)	—	雲	不良	褐灰	30	新治窯	
7	長頸瓶	—	(3.1)	—		良好	青灰	破片	東金子窯	
8	壺	(23.6)	(5.8)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
9	甕	(24.5)	(4.0)	—	角	普通	明褐	破片	利根川水系の土	
10	甕	—	(18.8)	—	角	普通	褐	30	利根川水系の土	

号住居跡と重複し、南北方向の長径が不明瞭になっている。本住居跡の方が古い。住居跡の平面形態は南北方向に細長い長方形で、規模は長径5.02m、短径3.80m、深さ0.38mを測る。主軸方位はN－33°－Eを測り、北壁中央部西寄りにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

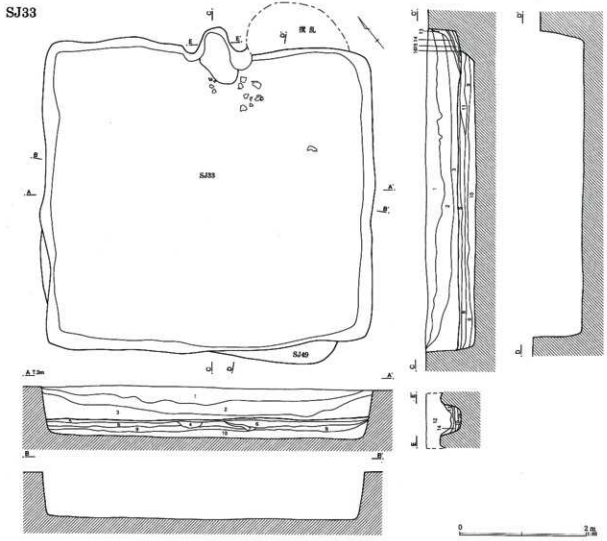
遺物はカマド付近を中心に出土しており、出土遺物から住居跡は8世紀前半の所産と考えられる。遺物は土師器坏、内面磨きの土師器坏、須恵器坏、須恵器長頸瓶、土師器甕、土師器壺が出土した。

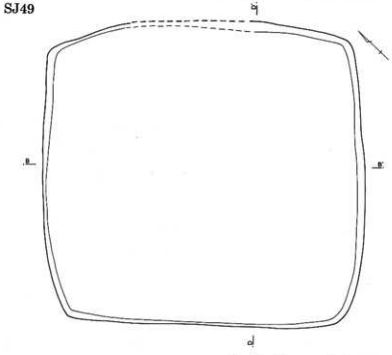
第33・49号住居跡（第33・49図）

J・K－4グリッドに位置する。第33号住居跡が、第49号住居跡の上に重複している。むしろ、第49号住居跡を埋めて、第33号住居跡が構築されている様である。第33号住居跡のカマド東側に、浅い攪乱を受けている。

第33号住居跡の平面形態はほぼ方形で、規模は長径5.20m、短径4.91m、深さ0.46mを測る。主軸方位はN－39°－Eを測り、北壁の中央部やや東よりにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

第49号住居跡の平面形態はほぼ方形で、規模は長





SJ33・49

1 黒　色　土　粘性弱く粒子細い
2 明黄褐色土　炭色の粘土ブロックを含み、粒子細い
3 灰 褐 色 土　粘性強く粒子細い、炭化物、焼土を含む
4 赤 褐 色 土　焼土ブロック、炭化物を多量に含む
5 灰 褐 色 土　2次貼り床面
6 黄 褐 色 土　炭化物を含まない層で、粘性弱い
7 黒　色　土　炭化物層
8 黄 褐 色 土　炭化物を含まない層で、粘性弱い
9 灰 褐 色 土　貼り床、第1次面
10 暗 褐 色 土　炭化物、鉄分を含む
11 暗赤褐色土　第1次カマドの焼土で、焼土粒子、炭化物を含み、やわらかい

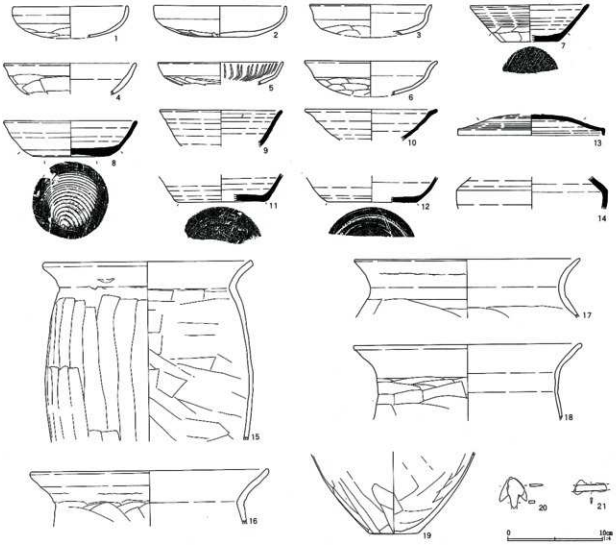
カマド

12 明灰褐色土　焼土粒子、炭化物粒子を微量に含む
13 明灰褐色土　天井部崩落土で、多量の焼土塊、微量の炭化物粒子を含む
14 炭 化 物 層　灰層で、少量の焼土粒子を含み、明灰褐色土を含む
15 焼　土　層　炭化物粒子を多量に含み、明灰褐色土塊を少量含む
16 炭 化 物 層　焼土、灰、灰褐色土塊を多量に含む

0　3m

第45図　第33・49号住居跡

SJ33



第46図　第33号住居跡出土遺物

径5.10m、短径4.82m、深さ0.74mを測る。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

両住居跡からは、8世紀から9世紀にかけての遺物が出土している。調査時に混在してしまった可能性もあり、その所属を明確にし得ない。第49号住居跡の方が古いことから、8世紀代の遺物は第49号住居跡所属の可能性が高い。しかし、第33号住居跡の特徴は8世紀代の住居跡と類似し、直上に重複していることからも、大きな時間差を感じ得ない。もう一つの可能性としては、8世紀代の住居跡内に、9世紀代の土壙等が存在していたか、もしくは、遺物が廃棄されたかの可能性があることである。いずれにしても、遺物の所属を明確には区分し得ない。ここでは、住居跡を8世紀中葉代の所産と見なし、9世紀代の遺物は住居跡に伴わないものと判断して置きたい。遺物は土師器坏、暗文のある土師器坏、須恵器坏、須恵器蓋、須恵器壺、土師器甕、鉄鏃、鉄製品が出土した。

第34号住居跡（第47・48図）

K－2グリッドに位置する。北西コーナーで第45号住居跡と一部重複し、北東コーナーで第80号土壙と重複する。いずれも本住居跡の方が新しい。

住居跡の平面形態は東西方向に細長い長方形で、

第33号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考	写真図版
1	坏	(12.2)	(3.4)	—	角雲	普通	明褐	25	利根川水系の土	
2	坏	(14.0)	3.3	—	角雲	普通	褐	25	利根川水系の土	
3	坏	(12.9)	(3.1)	—	角雲	普通	明褐	45	利根川水系の土	
4	坏	(14.1)	(3.3)	—	雲	普通	明褐	40	下総地方	
5	坏	(13.4)	(2.3)	—	角雲	普通	褐	20	利根川水系の土　内面暗文	
6	坏	(14.0)	(3.6)	—	角	普通	褐	30	利根川水系の土	
7	坏	(12.5)	3.9	(6.0)		普通	褐灰	25	三和窯	
8	坏	14.2	3.8	14.2		良好	灰白	55	常陸産	
9	坏	(13.0)	(3.8)	—	雲	普通	灰白	25	新治窯	
10	坏	(14.1)	(3.3)	—	片	良好	青灰	30	末野窯	
11	坏	—	(2.9)	(9.2)	雲	普通	青灰	25	新治窯	
12	坏	—	(2.7)	(9.5)	針	良好	青灰	25	南比企窯	
13	蓋	(15.6)	(2.1)	—	針	良好	青灰	35	南比企窯	
14	長頸瓶	—	(3.4)	—		普通	灰白	破片	東海地方	
15	甕	(22.0)	(18.9)	—	角雲	普通	褐	25	利根川水系の土	32-1
16	甕	(25.4)	(5.8)	—	角雲	普通	明褐	20	利根川水系の土	
17	甕	(23.9)	(6.3)	—	角雲	普通	褐	20	利根川水系の土	
18	甕	(24.2)	(8.1)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
19	甕	—	(8.7)	5.2	角雲	普通	褐	40	利根川水系の土	
20	鉄鏃	残存長3.1、幅1.8、厚0.2cm								
21	刀子	残存長3.3、刃幅0.6、背幅0.2cm								

規模は長径4.49m、短径2.70m、深さ0.17mを測る。

主軸方位はN－2.5°－Wを測り、北壁中央部やや西よりにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

住居跡は出土遺物から、9世紀前半代の所産と思われる。遺物は須恵器高台付皿、須恵器甕、土師器甕が出土した。

第35号住居跡（第47・48図）

K・L－5・6グリッドに位置する。北東コーナーで一部第43号住居跡と重複する。住居跡の平面形態は東西方向に細長い長方形で、規模は長径3.84m、短径3.34m、深さ0.16mを測る。

カマドは2基確認された。東壁中央部よりやや南寄りがカマドA、北壁中央部よりやや東寄りがカマドBである。主軸方位は、カマドAがN－58.5°－E、カマドBがN－33°－Wを測る。

壁溝は北壁中央から西コーナーに、南壁コーナーから東壁中央部にかけて巡り、幅0.23m、深さ0.15m程を測る。貯蔵穴、柱穴は確認されなかった。

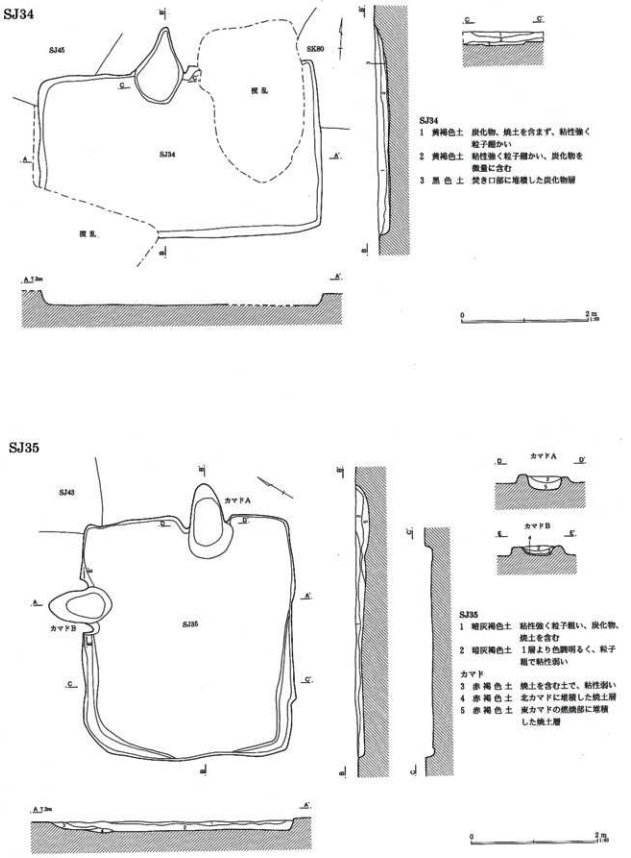
住居跡は出土遺物から、9世紀代末葉の所産と思われる。遺物は須恵器坏、須恵器高台付椀、黒色土器坏、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕、刀子、鉄製品、他に先端の尖る土製品が出土した。この土製品は、表面が良く研磨されており、甑の把手の可能性もあるが、小さく、用途不明である。

第36号住居跡（第49・50図）

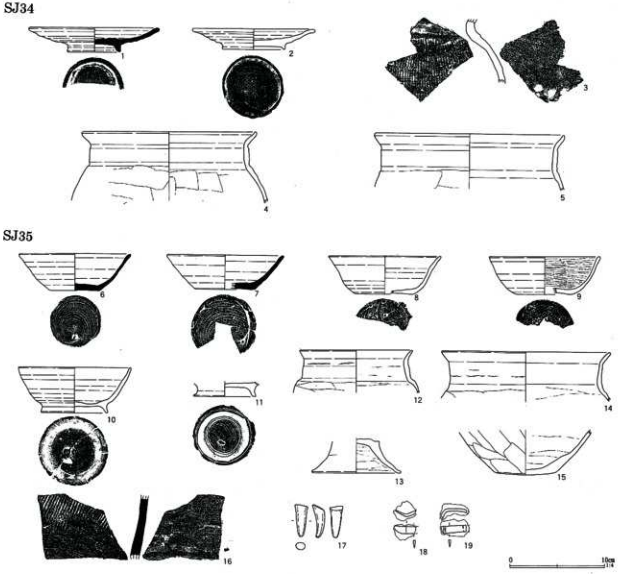
K－6グリッドに位置する。住居跡の北西コーナー付近で、第43号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。住居跡の平面形態は南北に若干細長い方形で、規模は長径3.10m、短径3.02m、深さ0.13mを測る。

主軸方位はN－26.5°－Wを測り、カマドは北壁の中央部やや西よりに構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

住居跡は出土遺物から、8世紀後半代の所産と思われる。遺物はカマドを中心にしてその付近から出



第47図 第34・35号住居跡



第48図　第34・35号住居跡出土遺物

土しており、須恵器坏、須恵器蓋、須恵器長頸瓶、土師器甕、土錘、鉄製品が出土した。

第37号住居跡（第49・50図）

J－5・6グリッドに位置する。西壁で第47号井戸と重複しているが、住居跡の方が古い。平面形態は東西に細長い長方形で、規模は長径3.76m、短径3.25m、深さ0.12mを測る。

主軸方位はN－68°－Eを測り、東壁中央部やや南よりにカマドが構築されている。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は確認されなかった。

出土遺物から住居跡は、9世紀末葉代の所産と推定される。遺物は東壁の両コーナーを中心として出土しており、須恵器坏、須恵器甕、土師器甕、土師器台付甕、刀子が出土した。

第38号住居跡（第50・51図）

K－3グリッドに位置する。住居跡北西コーナー付近で、第102号土壙、第42号井戸跡、第43号井戸跡と重複するが、いずれも住居跡の方が古い。住居跡の平面形態は南北方向に細長い長方形で、規模は長径4.32m、短径3.31m、深さ0.08mを測る。

第34号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
1	高台付皿	(13.7)	2.6	5.6		良好	青灰	40	東金子窯	36-6
2	高台付皿	13.1	2..2	6.6		普通	明褐	70	下総地方	43-8
3	甕	—	—	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
4	甕	(18.5)	(7.3)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
5	甕	(20.1)	(5.8)	—	角	良好	褐	破片	利根川水系の土	

第35号住居跡出土遺物観察表（第48図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
6	坏	(11.8)	3.9	5.3		良好	青灰	40	東金子窯	
7	坏	(12.3)	3.6	6.6	針	普通	灰白	30	南比企窯	
8	坏	(12.0)	4.0	(6.0)		普通	褐灰	20	下総地方	
9	坏	(11.7)	4.0	(5.8)	角	普通	褐灰	20	下総地方　内黒・ミガキ	
10	高台付坏	(11.9)	4.8	7.1	角	普通	褐灰	60	下総地方	42-6
11	高台付椀	—	(1.6)	6.6	角	良好	褐灰	90	下総地方　内面ミガキ	
12	甕	(11.9)	(4.5)	—	角	普通	褐	30	利根川水系の土	
13	台付甕	—	(3.6)	9.4	角	普通	褐	90	利根川水系の土	
14	甕	(17.8)	(5.3)	—	角	普通	褐	破片	利根川水系の土	
15	甕	—	(4.7)	6.4	角	普通	明褐	60	利根川水系の土	
16	甕	—	—	—		普通	灰白	破片	下総地方	
17	土製不明品	残存長3.40cm							直径0.75～1.05cm	
18	刀子	残存長2.3、刃幅0.8、背幅0.2cm							折れ曲がる 18・19同一個体か？	
19	刀子	残存長2.1、刃幅0.8、背幅0.2cm								

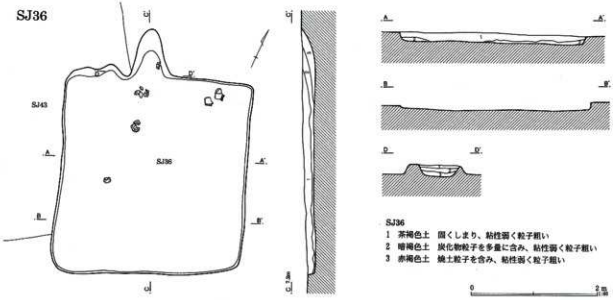
第36号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
1	皿	15.0	3.2	6.0	針	不良	褐灰	80	南比企窯	37-5
2	坏	(12.7)	4.0	6.3	角	普通	灰白	30	三和窯	
3	蓋	(16.3)	(3.9)	—	片	普通	青灰	破片	末野窯	
4	高台付椀	—	(5.7)	(8.8)		普通	青灰	30	三和窯	
5	長頸瓶	—	(13.6)	8.7	角	良好	青灰	70	東金子窯 自然釉付着	35-4
6	甕	(21.1)	(7.2)	—	角	普通	褐灰	破片	利根川水系の土	
7	甕	(23.1)	(5.4)	—		普通	青灰	破片	三和窯	
8	土錘	残存長3.7、直径1.4、孔径0.4cm、重さ7.06g						70		
9	鉄製不明品	残存長2.9、幅0.3cm								

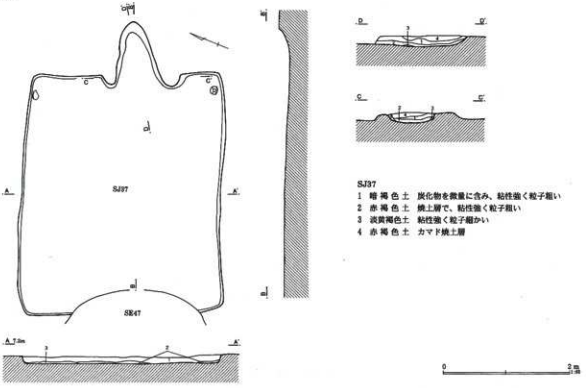
第37号住居跡出土遺物観察表（第50図）

番号	器　種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備　　考	写真図版
10	坏	12.8	3.7	6.6		普通	青灰	80	三和窯	40-2
11	坏	(12.5)	4.2	(6.6)		普通	灰白	35	三和窯	40-3
12	椀	(15.4)	6.6	6.0	針	普通	褐灰	35	南比企窯	
13	甕	(13.9)	(1.8)	—	角	普通	褐灰	破片	下総地方	
14	甕	—	—	—		普通	褐灰	破片	下総地方	
15	甕	(19.0)	(7.3)	—	角	普通	褐	30	利根川水系の土	
16	甕	(12.2)	(7.3)	—	角雲	普通	褐	20	利根川水系の土	
17	甕	—	(8.5)	—	針	普通	青灰	20	南比企窯	
18	刀子茎	残存長4.0、幅0.8cm								

SJ36



SJ37



第49図　第36・37号住居跡